宿尻遺跡

（第２次発掘調査）

平成６年度県営ほ場整備事業原村
西部地区に伴う緊急発掘調査報告書

1995.3

長野県原村教育委員会

宿尻遺跡

（第２次発掘調査）

平成６年度県営ほ場整備事業原村
西部地区に伴う緊急発掘調査報告書

1995.3

長野県原村教育委員会

表紙地図10,000分の１　○印が宿尻遺跡

序

八ケ岳山麓の原村では、農業の合理化と生産性の向上を目的とした県営ほ場整備事業が進められており、村内の柏木・菖蒲沢地区に係る「県営ほ場整備事業原村西部地区」も、本年度工事着工されているところであります。

一方、八ケ岳西麓は遺跡の宝庫として全国的にも著名であり、古くから注目を集めてきました。このたび報告書を刊行することになりました宿尻遺跡は、昨年度遺跡の範囲確認調査を実施し、その結果をもとに今回、諏訪地方事務所の委託と国・県からの補助金の交付を受けて、原村教育委員会が緊急発掘調査を実施したものです。

今回の調査にあたり、ご理解とご協力をいただいた諏訪地方事務所土地改良課各位、菖蒲沢地区及び柏木地区実行委員会各位、地元の地権者の方々、また長野県教育委員会をはじめとして、発掘調査から報告書作成にいたる過程で、御指導、御協力を賜った関係者各位に心から謝意を表し、序といたします。

平成７年３月

原村教育委員会
教育長　平林　太尾

例　　言

1　本書は、「県営ほ場整備事業原村西部地区」に伴って実施した長野県諏訪郡原村菖蒲沢に所在する宿尻遺跡の緊急発掘調査報告書である。

2　本調査は、諏訪地方事務所の委託を受けた原村教育委員会が、国庫及び県費から発掘調査費補助金の交付を受けて、平成６年４月20日から10月14日まで実施した。整理作業は平成６年12月２日から平成７年３月22日まで行った。

3　現場の発掘調査における遺構等の実測・記録は五味一郎と井上智恵子、写真撮影は五味が行った。また遺物整理・図面の整理は井上・五味・日達けさほ、原稿の執筆は五味が行った。

4　出土品・諸記録は原村教育委員会で保管している。なお、本調査関係の資料には、46の原村遺跡番号を表記した。

5　発掘調査から報告書作成にいたる過程で、長野県教育委員会文化課指導主事小平和夫・春日雅博の各氏、武藤雄六氏、茅野市教育委員会の小林深志氏・百瀬一郎氏、諏訪市博物館の亀割均氏、地権者の宮坂一次氏をはじめ多くの方々から御指導・御教示を賜わった。記して厚く感謝申し上げる。

目　　次

序　例言　目次
Ⅰ　調査に至る経過 …… 1
Ⅱ　発掘調査の経過 …… 1
Ⅲ　遺跡の位置と環境 …… 5
Ⅳ　グリッドの設定と調査の方法 …… 5
Ⅴ　遺跡の層序 …… 9
Ⅵ　遺構と遺物 …… 9
Ⅶ　ま　と　め …… 28
参考文献・発掘調査団名簿
報告書抄録

I　調査に至る経過

宿尻遺跡の保護については、平成５年10月４日に行われた県営ほ場整備事業原村西部地区にかかる遺跡の保護協議において協議された。出席者は長野県教育委員会文化課・諏訪地方事務所土地改良課・原村役場農林課・原村教育委員会の４者であった。平成４年度の保護協議では、柏木区に所在する比丘尼原遺跡の範囲確認調査を行う計画であったが、平成６年度のほ場整備事業の着工が菖蒲沢地区に変更されたため、急きょ予算を宿尻遺跡に振り替え、範囲確認調査を実施することとなった。これによって遺跡の広がりや遺構遺物の埋蔵状態の確認等を把握し、その結果によって今回の本調査（第２次緊急発掘調査）が可能かどうかを再検討することとなった。

範囲確認調査は11月18日から12月６日まで実施され、その結果、集落跡の存在を明確にするまでには至らなかったが、小規模ではあっても集落の埋没は予想された。遺跡の時期については、採集遺物によって縄文中期初頭及び同曽利期と考えられてきたが、新たに縄文時代早期と平安時代が加わったものの、従来考えられてきた位置と範囲を大きくはずれるものではないと思われた。こうした結果に基づいて原村教育委員会は、長野県教育委員会文化課の指導を受ける中で諏訪地方事務所から緊急発掘調査の委託を、また、農家負担分については国庫及び県費から発掘調査費補助金の交付をうけて、４月20日から10月14日まで宿尻遺跡第２次緊急発掘調査を実施した。

II　発掘調査の経過

調査日誌（抄）

平成６年４月20日　発掘調査の準備を始める。

５月９日　重機による表土剝ぎをＨ区から始める。

５月10日　焼土と炭化材・礫が出土する（４号住居址）。

５月13日　遺構検出を始める。範囲確認調査の際小竪穴１が検出された付近で須恵器・灰釉陶器と炭化材・焼土が検出される（２号住居址）。

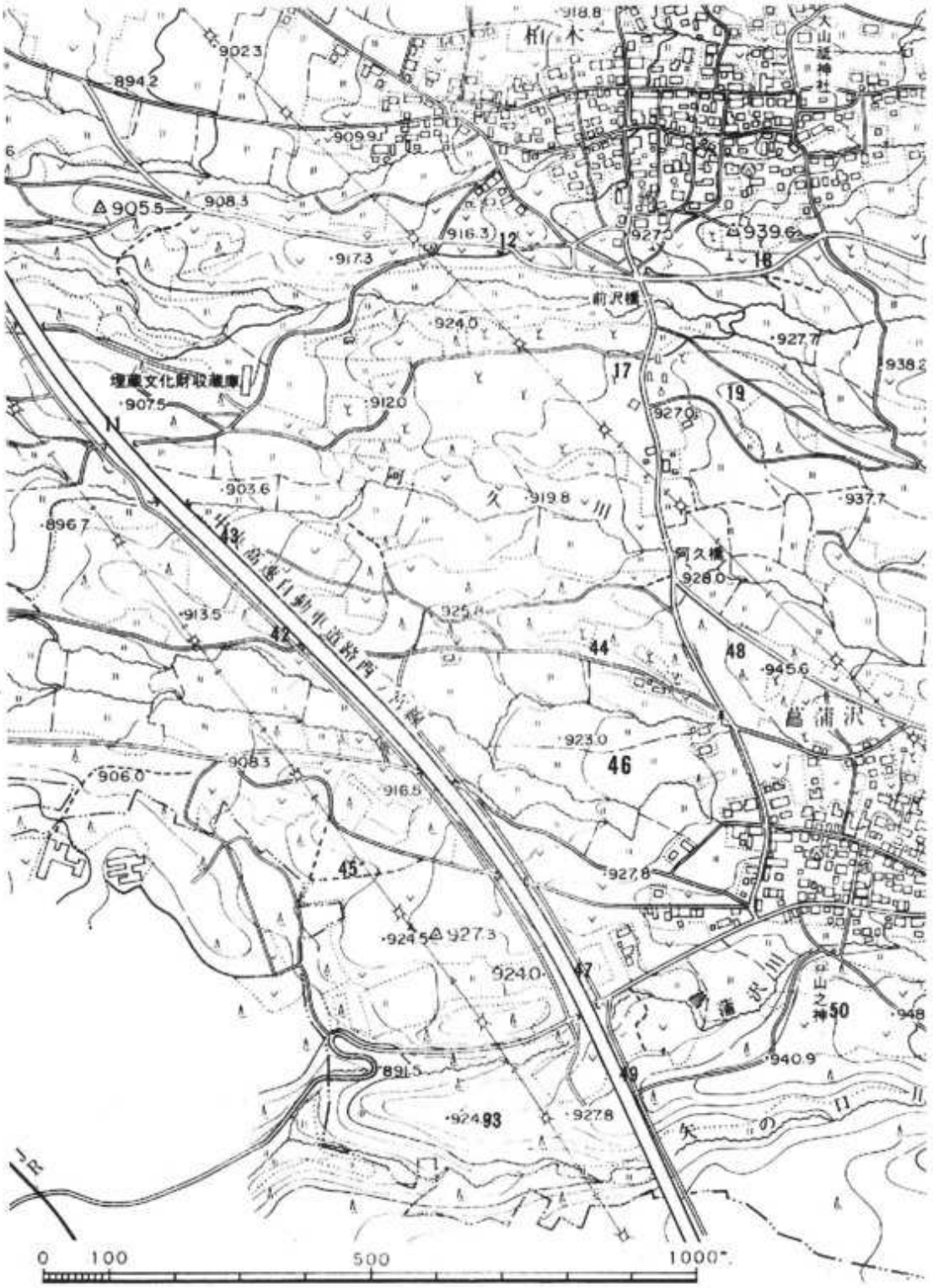
５月16日　縄文中期初頭期の土器片・黒曜石などが出土し始める（７号住居址）。

６月１日　重機による表土剝ぎ・遺構検出を続ける。検出面の乾燥が著しいため、本日よりホースによる散水を始める。

６月３日　居沢尾根遺跡からテントを移動する。

６月７日　土師器と炭が出土し住居のプランが表れる（１号住居址）。

６月14日　礫が多量に出土し始める。自然か人為的なものかわからず調査は難航する。



第1図　宿尻遺跡の位置と付近の遺跡 (1/10,000)

表1　宿尻遺跡と付近の遺跡一覧

番号	遺跡名	旧石器	縄文 草	縄文 早	縄文 前	縄文 中	縄文 後	縄文 晩	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	備考
11	阿　久		○	○	○	○	○					○			昭和50～53年度、平成5年度発掘調査
12	前　沢					○						○		○	昭和55・61年度発掘調査
17	臼ヶ原			○		○						○			昭和53年度発掘調査
18	前尾根西					○									昭和51年一部破壊
19	南　平					○									
42	居沢尾根					○	○					○			昭和50～52・56・平成6年度発掘調査
43	中阿久					○								○	昭和51年度発掘調査
44	原　山					○						○			昭和50年一部破壊
45	広原日向	○				○	○					○			昭和58年度発掘調査
46	**宿　尻**			○		○	○					○			平成5・6年度発掘調査
47	ヲシキ			○	○	○						○			昭和51年度発掘調査
48	楡の木					○									昭和53年一部破壊
49	大石	○		○	○	○						○		○	昭和50・平成4・5年度発掘調査
50	山の神					○	○					○			昭和54年度発掘調査
93	大石西				○	○						○			平成3年度発掘調査

7月4日　重機による表土剝ぎ・遺構検出を続ける。小竪穴検出写真撮影。

7月5日　1号住居址・小竪穴検出写真撮影。

7月6日　2号住居址・小竪穴検出写真撮影

7月8日　3・5号住居址検出。小竪穴検出写真撮影。

7月12日　小竪穴検出写真撮影

7月14日　3・4号住居址検出写真撮影。

7月15日　5号住居址・小竪穴検出写真撮影。

7月18日　6号住居址検出。

7月20日　小竪穴検出写真撮影。

7月21日　6号住居址・小竪穴検出写真撮影。

7月27日　小竪穴検出写真撮影。北側尾根南斜面の畑（C・D区178列北）にて重機によるトレンチ調査。重機による作業は本日にて終了する。

8月1日　小竪穴検出写真撮影をほぼ終了する。

8月2日　小竪穴の調査を開始する。

8月4日　小竪穴調査。写真撮影。

8月5日　1号住居址の調査を始める。小竪穴調査と写真撮影。

8月8日　1・2号住居址の調査。小竪穴調査と写真撮影。

8月9日　1・2号住居址、小竪穴の調査と写真撮影。

8月10日　1・2号住居址調査、小竪穴調査と写真撮影。

8月11日　2号住居址調査、小竪穴調査と写真撮影。

8月12日　2号住居址調査、小竪穴調査と写真撮影。

8月18日　2・3号住居址調査、小竪穴調査と写真撮影。

8月19日　2・3・4号住居址調査、小竪穴調査と写真撮影。

8月22日　2・3・4号住居址調査、小竪穴調査と写真撮影。

8月23日　2・3・4号住居址調査と写真撮影。小竪穴調査と写真撮影・実測。

8月29日　5号住居址調査、小竪穴調査と写真撮影。

8月30日　5号住居址調査、小竪穴調査と写真撮影。

8月31日　5号住居址調査、2・3号住居址実測。小竪穴調査と写真撮影。

9月2日　1・2・5号住居址調査、3号住居址一部実測。小竪穴調査と写真撮影。

9月5日　1号住居址実測。2・5号住居址調査、小竪穴調査と写真撮影。

9月6日　1号住居址実測。2号住居址調査、小竪穴調査と写真撮影。

9月7日　2号住居址床面精査。3号住居址一部実測。5号住居址調査。小竪穴調査と写真撮影。

9月8日　1・2・3号住居址調査。

9月9日　1・2号住居址床面精査。6号住居址調査。3・5号住居址写真撮影。小竪穴調査と写真撮影・実測。

9月12日　1・2・3・5・6号住居址調査、1号住居址写真撮影。小竪穴実測。

9月14日　3・5・6号住居址調査。2号住居址写真撮影。小竪穴調査。

9月15日　5号住居址実測。小竪穴実測。

9月19日　3・5号住居址調査。1・2号住居址実測。小竪穴調査。原村議会社会文教委員会の視察。

9月20日　1号住居址カマド精査。3・5・6号住居址調査。

9月21日　5・6号住居址調査。3・6号住居址写真撮影。4号住居址実測。7号住居址検出作業。

9月22日　5・6号住居址精査。7号住居址調査。

9月26日　4・7号住居址調査。5・6号住居址床面精査。小竪穴調査。

9月29日　4・7号住居址調査。5・6号住居址写真撮影。

9月30日　台風一過にて、住居址や小竪穴に泥水が流れ込み、復旧作業に追われる。4・7号住居址調査、写真撮影。

10月３日　７号住居址実測。５・６号住居址より下方の発掘区全体写真撮影。

10月４日　７号住居址床面精査。発掘区全体写真撮影。

10月５日　７号住居址最終精査。作業員による調査を終了。テントを撤収し、機材のかたつけを行う。

10月９日　５・６号住居址実測。

10月10日　５・６号住居址・小竪穴実測。

10月12日　４・５・７号住居址実測。

10月13日　５・７号住居址実測。各遺構最終調査。

10月14日　現場調査終了。機材かたつけと洗浄。

III　遺跡の位置と環境

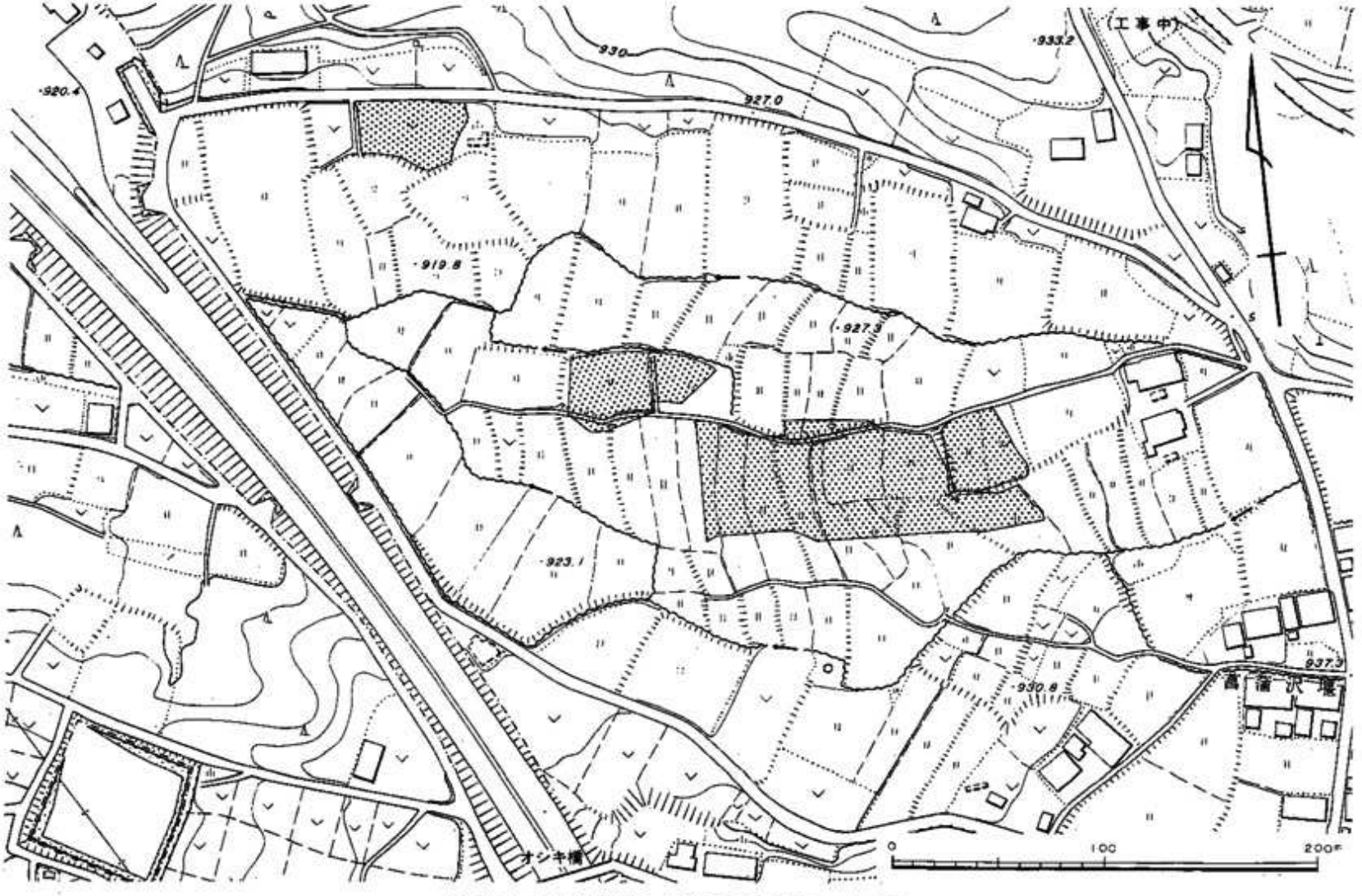
宿尻遺跡（原村遺跡番号46）は、長野県諏訪郡原村10,165番地付近にあり、菖蒲沢区の西に隣接する。地目はほとんど水田であるが、一部普通畑がある。遺跡の北と南には、当地方に特徴的な東西に長い小高い尾根があり、比高差は北が８ｍ、南が９ｍを測る。北の尾根には原山遺跡が立地し、やや下って居沢尾根遺跡へと続き、南の尾根の下方にはヲシキ遺跡と広原日向遺跡が立地する。尾根をひとつ越えた南方には大石遺跡が立地している。

本遺跡のある尾根の間は広いところで約300ｍほどあり、西に傾斜するものの比較的平坦で、その中には東西方向に２筋の汐が流れている（南側の汐は菖蒲沢汐の続き）。遺跡地はこの汐に挟まれた幅20ｍ足らずのわずかな隆起部にあたる。このため台風などの水害の時には、常に水をかぶる危険性のある、立地条件としてはあまり良くない場所であったと思われる。なお今回の調査地点の標高は927ｍ前後を測る。

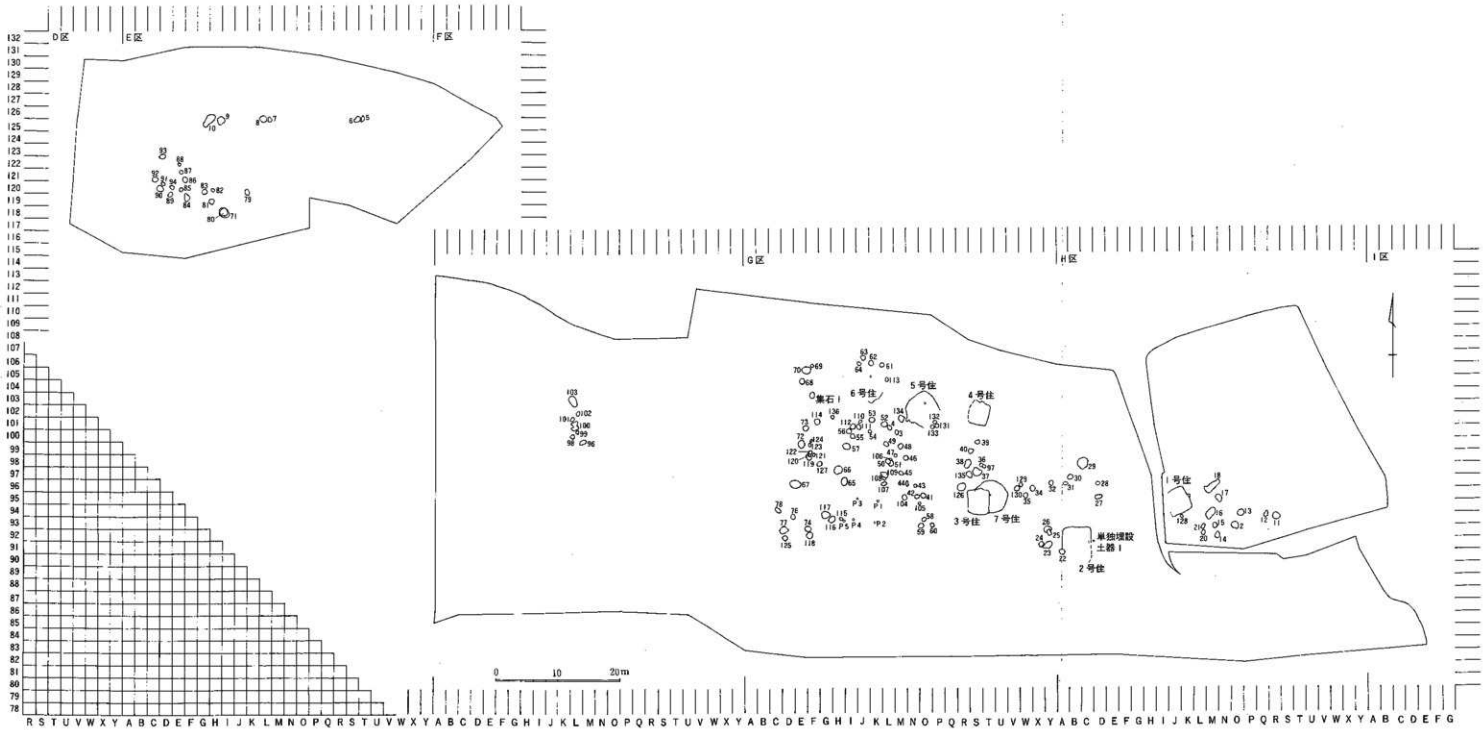
IV　グリッドの設定と調査の方法

調査は重機で表土を除去した後、手堀りにより全面で遺構検出を行い２ｍグリッド法で行った。

グリッド設定は第１次調査の際設定した基準杭を確認した上で、前回同様に最初の基準杭を置き、東西南北方向（磁北による）に十文字のラインを設定した。東西方向はこの基準線からそれぞれ50ｍの大区分を設け、東をＨ・Ｉ区、西をＧ・Ｆ・Ｅ・Ｄ区とした。さらにその大区分を２ｍの小区分に分け、西からアルファベットのＡからＹ（25区分）までを振った。南北方向は大区分を設けず、東西の基準線を境に２ｍの小区分に区切り、南に100・99・98と小さく、北に101・102・103と大きくなるよう名付けた。これによって遺跡全体に２ｍ×２ｍのグリッドが設定され



第2図　宿尻遺跡第2次発掘調査区域図・地形図 (1/3,000)



第3図　宿尻遺跡グリッド配置図・遺構位置図 (1/600)

たことになり、各グリッドは①東西の大区分、②東西の小区分、③南北の小区分の順に表記することで特定した（例：HA－104）。また、東西のグリッド列については「100列」のように、南北の列については大区分は「G区」、小区分は「GY列」というように称している。なお東西方向のラインは、ほぼ八ケ岳裾野の傾斜方向である。

また用地北端の原山遺跡のある尾根南斜面下部の畑地については、前回の調査でグリッド発掘を行った箇所の西続きを、重機で任意にトレンチ掘りした。ほぼ重機のバケット幅（1.2～1.4m幅）で東西に3列（長さ41.5～47.5m）をローム層まで掘り下げたが、大量の自然礫が出土し、遺物遺構等は発見できなかった。

調査は基本的にはソフトローム層上面までとし、調査面積は9,470m²である。

V 遺跡の層序

本遺跡の層序は、地点により異なっている。場所によってはソフトローム層の下部にあるハードローム層まで田の造成によって削られている箇所も見られた。ここでは遺跡中心部の尾根筋で本来の堆積が残っている地点の基本的な層序を示す。

第Ⅰ層　黒色　土層　水田の耕作土層。粘性強くしまっている。厚さ25ｃｍ。

第Ⅱ層　赤褐色土層　水田の床土。硬度高く良くしまっている。粘性なし。厚さ５～11ｃｍ。

第Ⅲ層　黒褐色土層　水田造成前の表土層（耕作土層）と思われる土層で、しまり粘性ともに無く、もろい。ローム粒、細礫を含む。大きな礫を含むことがある一方、この層が認められないグリッドもある。厚さ20cm。

第Ⅳ層　茶褐色土層　しまり粘性あり、やや固い。第Ⅴ層へ漸移する。第Ⅲ層同様、大きな礫を含むことがある一方、この層のない箇所もある。厚さ15～30cm。

第Ⅴ層　黄褐色土層　いわゆるソフトローム層。

なお尾根の南と北の、沢筋へなだらかに傾斜する部分では、第Ⅲ層の下に暗褐色土層が分布する。この層はしまり良く粘性もあり、特に沢筋に近い部分では大小の大量の礫を含み厚くなる。

Ⅵ 遺構と遺物

1．旧石器時代の遺物

発見された遺物は、ナイフ形石器１点である（第９図１）。打面を残す基部加工のナイフ形石器で、一部自然面を残す黒曜石の石刃状剥片を素材としている。Ｈ区の攪乱層から出土した。

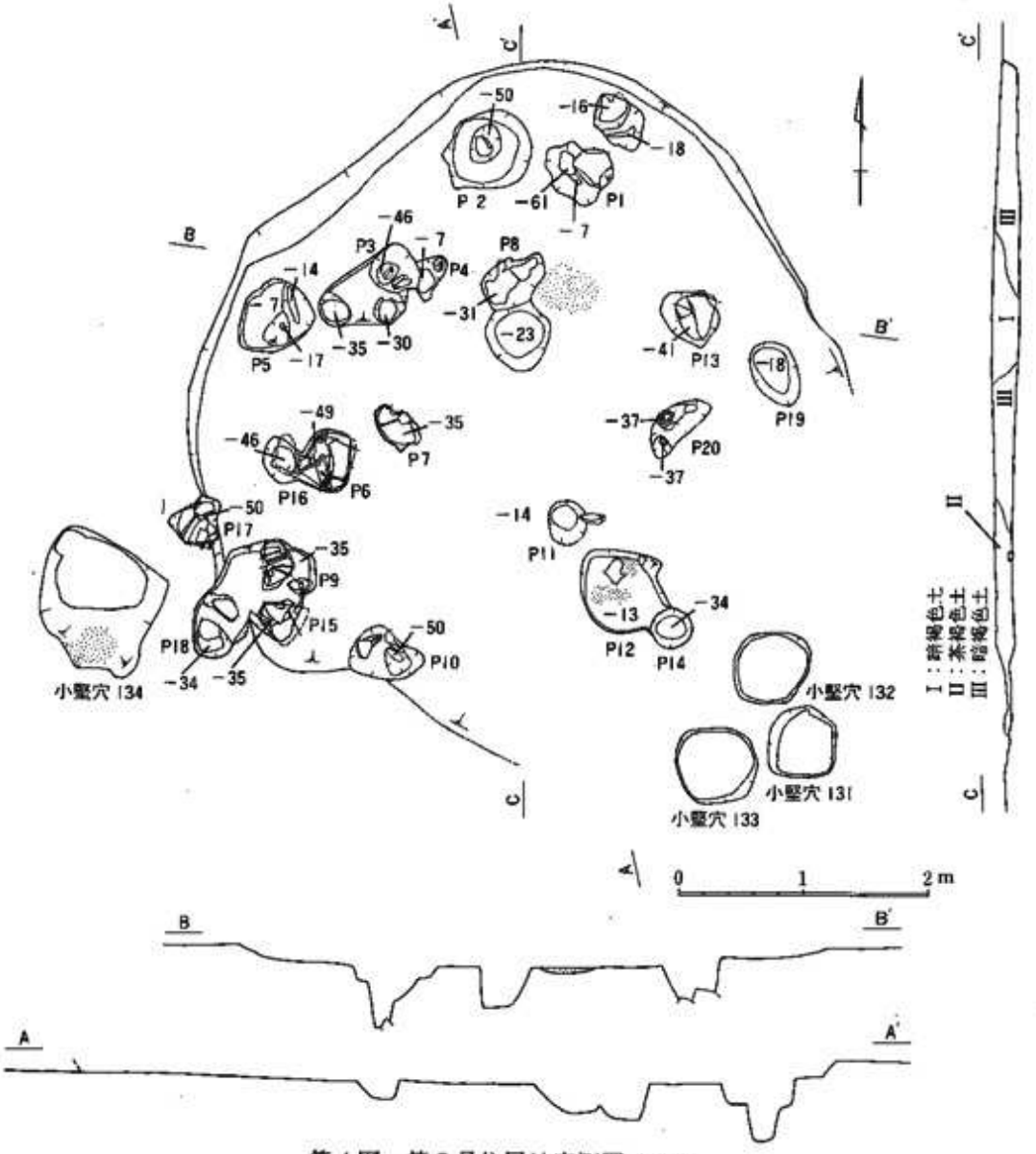
2．縄文時代の遺構と遺物

遺構としては中期初頭期の住居址３軒、小竪穴129基、集石１を検出し調査した。

(1) 住居址

第５号住居址

調査の経過　GO-102を中心にハードローム層中で本址を検出した。検出面には田の造成の際



第４図　第５号住居址実測図 (1/60)

のものと思われる重機の爪痕が残り、住居址の上部はかなり削り取られているものと推定された。

調査は南北方向に土層観察ベルトを設定して行い、埋土をⅠ～Ⅲに細分した。Ⅰは焼土粒・ローム粒・炭化物を含む暗褐色土。Ⅱは焼土粒・ローム粒・炭化物を含む茶褐色土。Ⅲは焼土粒・ローム粒・炭化物を含む暗褐色土だが含有物はⅠ層より少ない。遺物は埋土全域から出土したが、住居の南西部では床面からやや浮いて礫とまとまった土器が出土した。

遺　構　平面形は478×(400)cmの不整円形で、南西壁は検出できなかった。壁の立ち上がりはなだらかで、壁高は北西壁が13cm、北東壁が5cm、南西壁が6cmと遺存状態はあまり良くない。床面はロームのタタキ床で固く良好である。全体に中央部から壁にかけて高くなっている。

住居内ではP1～P20までの穴を検出した。埋土は茶褐色土か暗褐色土でローム塊を含むものが多いが、P20については黒褐色土で他とは異なる。本住居址に伴うものか疑問が残る。柱穴として使われたと思われる穴も多いが、ローム層中には40cm位までの大きな礫が大量に含まれるため、当時も掘り直し等をしていたことも考えられる状態であった。

炉址は中央北壁寄りに、径47×34cmの地焼炉がある。この部分はかなりしっかりと焼けて固く、焼土厚は4cmである。

遺　物　この住居に伴う遺物は、復元可能な土器1点のほか、破片が比較的多く出土している。いずれも九兵衛尾根式である。石器は石鏃3点（第7図1・2）、打製石斧8点（10）、凹石8点（8・9）、石皿破片1、多くの黒曜石他の剥片・砕片などがある。

第6号住居址

調査の経過　GK-104を中心にハードローム層中で暗褐色土の落ち込みを認めたが、ロームマウンドと切り会い、また田の造成の際に、上部はかなり削り取られているものと推定され、保存状態はかなり悪い。壁は南東側でごく一部検出できたのみで、それ以外ははっきりしない。埋土はローム粒と炭化物を含む暗褐色土である。

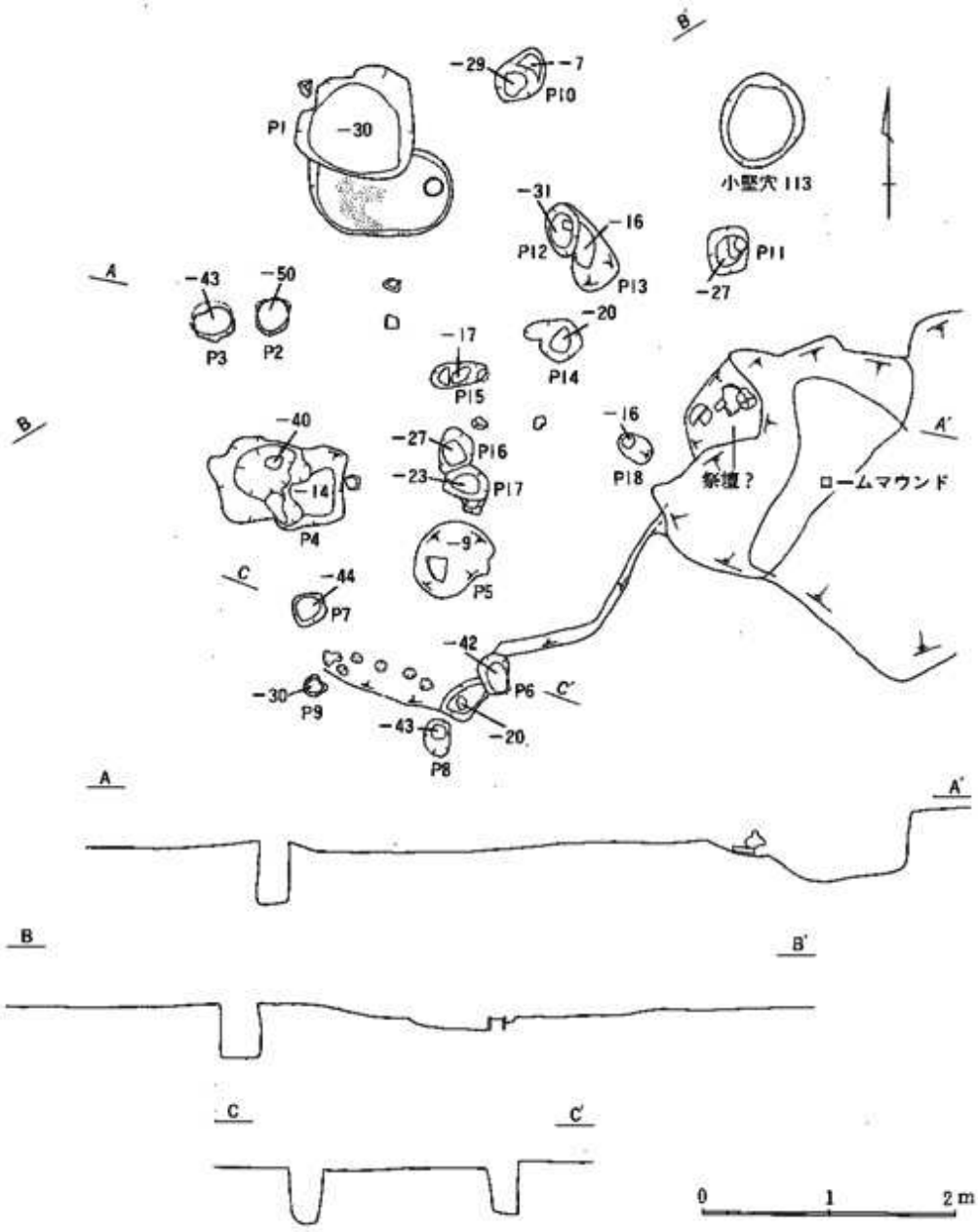
遺　構　平面形は不明である。一部に認められた壁は高さ6cmと遺存状態は悪い。床面は締まったローム層の床が一部認められるものの北と西側については柔らかくはっきりしない。

穴はP1～P18までを検出した。埋土はいずれも暗褐色土でローム粒を含む。P2・3は柱穴と考えられる。また南側のP6～P9については、住居入口部に関係した柱穴であろうか。

炉は埋甕炉で小さな九兵衛尾根式土器の胴部を床面下に埋め込んである。付近は小竪穴状となってP1によって切られており、古い小竪穴だった可能性もある。中には焼土が落ち込んだ状態で検出されたが、これは本住居址に伴うものであろう。

なお住居址の東壁に近いと思われる部分から、加工を加えた安山岩（溶岩）と平板石それに石棒と浅鉢の底部が床面からやや下がった位置で発見されている。あたかも祭壇を思わせる状態であり、注目される。

遺　物　遺物は薄い埋土全域から出土している。土器は九兵衛尾根式で量はあまり多くないも

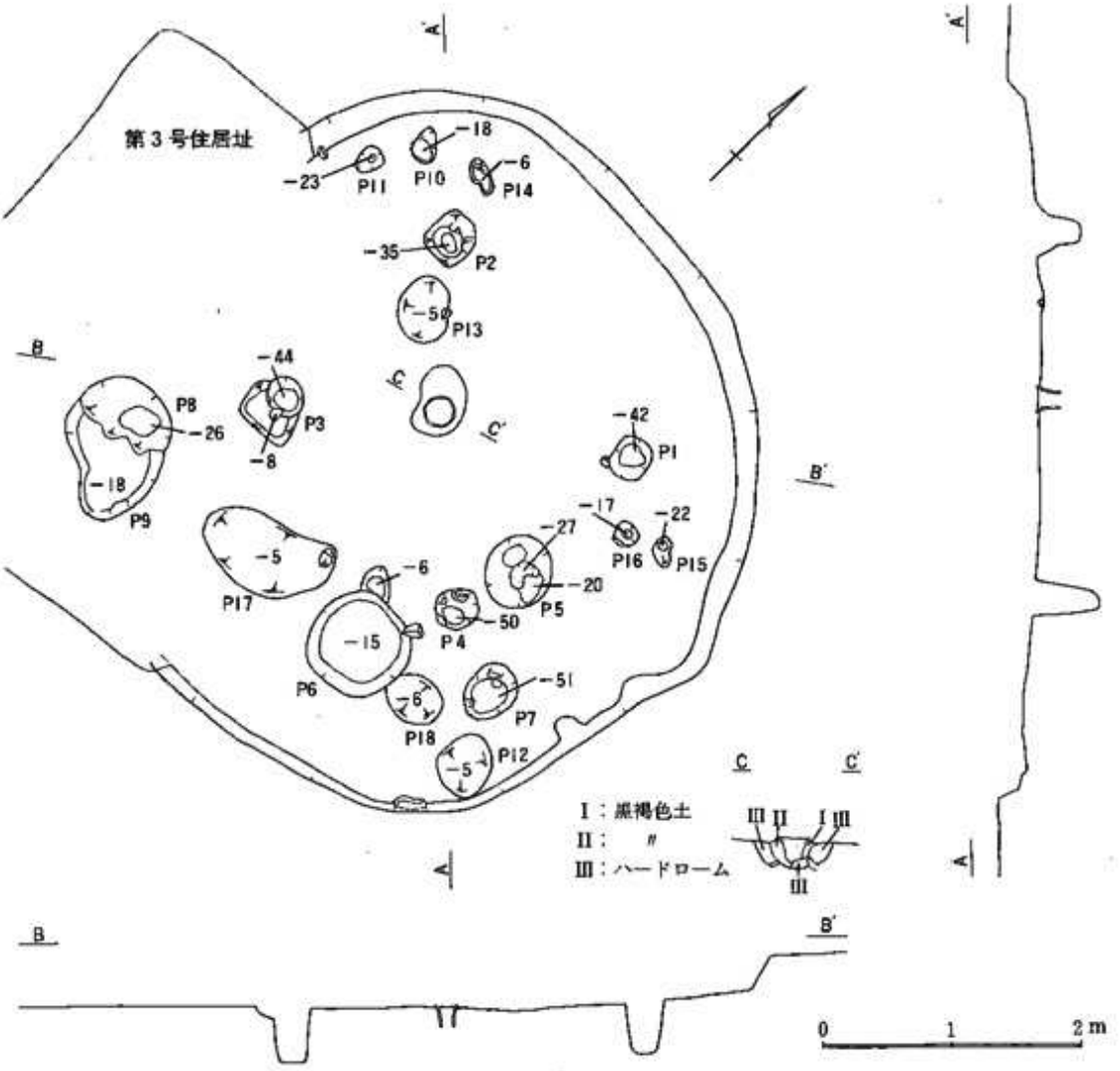


第５図　第６号住居址実測図（1/60）

のの床面上からは浅鉢（写真23）が発見されている。石器としては石鏃３点（第７図３～５）、打製石斧２点（12）、凹石２点、石棒１点（11）、加工の加えられた安山岩（溶岩）１点（第８図１）、黒曜石他の剝片などがある。

第７号住居址

調査の経過　まず平安時代の３号住居址を検出し、そしてそれに切られる形でGT-95を中心



第6図　第7号住居址実測図 (1/60)

に暗褐色の落ち込みがぼんやりと認められ、中期初頭期の遺物が一帯から出土した。そこで3号住居址の調査終了を待って、ソフトローム上層で本址を検出した。住居址の埋土はローム粒と炭化物を含む、上下かなり均一の暗褐色土で自然堆積状態であった。調査の過程で埋土中から50cmまでの多くの礫が出土したが、その多くは遺物同様床面より浮いていた。

遺　構　平面形は510×(510)cmのやや歪んだ円形と思われる。壁は南西部を3号住居址によって壊されているほかは良好な状態で遺存していた。壁高は北壁の25cmを最高に、南壁で17cm、西壁で14cm、東壁で18cmを測る。床面はローム層を叩き締めしっかりしている。壁際がやや小高く中央部が低くなっており、ややテラス状になる部分もある。

穴はＰ１～P18を検出した。この中で柱穴と考えられるものはＰ１～４・７で、埋土はいずれもローム塊を含む暗褐色土である。Ｐ１～４は炉を囲む方形をなす。

炉はやや北壁寄りにある埋甕炉で、ずんどう形の深鉢の胴部から上を埋設してある。

遺　物　遺物は量的には縄文時代の３軒の住居址の中で一番多く、検出段階から埋土全域で出土した。土器は九兵衛尾根式の土器４個体（写真19～22）ほか破片がかなりあるが、多くは床面から浮いて出土した。19～22はいずれも地文を縄文とし、頸部からＹ字状の隆帯を垂下させる同様の土器である。21はほとんど完形品で、この時期の優品である。22は埋甕炉の炉体土器に用いられていたものである。石器としては石鏃４点・打製石斧８点・横刃形石器２点・凹石５点・多くの黒曜石他の剥片（内１点は水晶製）や砕片などがある。なお本址と重複している３号住居址からも同時期の土器片や石器が出土しているが、その多くは本址に伴うものと思われる。石器としては石鏃２点（第７図６・７）、打製石斧６点（第８図２～４）、横刃形石器１点、磨製石斧１点、ハンマー１点、凹石２点（５・６）、黒曜石他の剥片や砕片などがある。

(2)　小竪穴・集石・単独埋設土器

小竪穴は全部で129基あり、完形に近い土器を伴うもの２基、土器の破片を伴うもの23基、石器（剥片を含む）を伴うもの11基、土器片と石器を伴うもの22基、遺物の出土のないもの71基に分けられる。

検出地点としてはＤ・Ｅ区で23基発見されているほか、Ｆ区で７基、残り99基は住居址が検出されているＧ区とその東のＨ区である。遺物が伴出した小竪穴58基で帰属時期のわからないものもあるが、Ｄ・Ｅ区を除く多くは住居址と同じ中期初頭のものと考えられる。Ｆ区の小竪穴も住居址の地点とは30mほど離れているものの、同様の時期である。なおＤ・Ｅ区の小竪穴群は他と異なり、押型文土器の発見された１基と、時期不明の縄文土器を出土した２基以外は遺物がなく、他の小竪穴群とは時期も異なるようである。

表２に一覧表を示したが、以下に遺物を出土した小竪穴の一部について略述してみたい。

小竪穴３

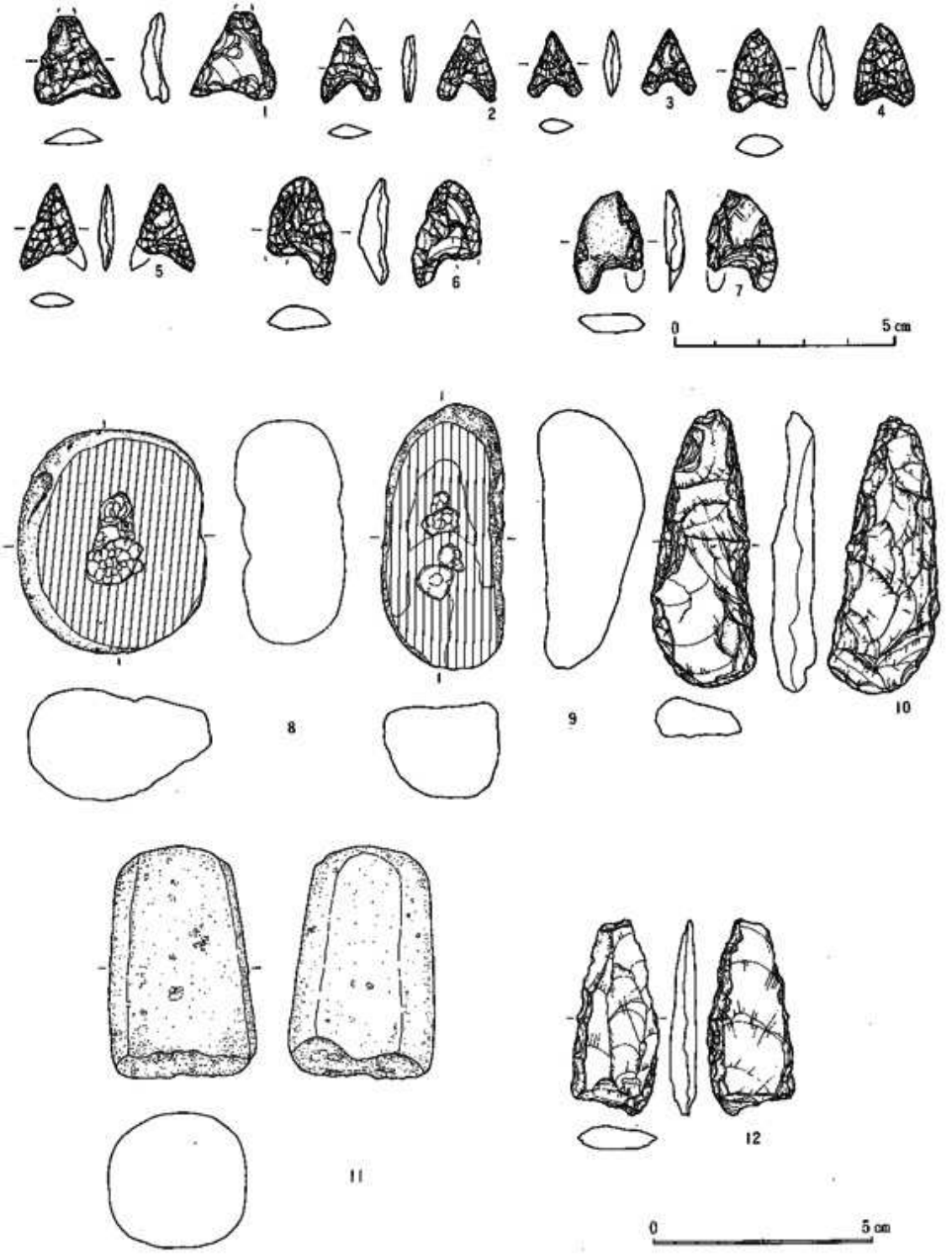
GM-100で検出調査した。平面形は楕円形で、埋土はロームと炭化物を含む暗褐色土で深さは９cmとごく浅い。内部から横倒し状態の九兵衛尾根式の深鉢と凹石２点が発見された。土器は攪乱で半分を削り取られた状態で、残存部も細かく砕けて復元できなかった。

小竪穴54

GK・GJ－100で検出調査した。平面形は円形で埋土はロームと炭化物を含む暗褐色土で深さは17cm。九兵衛尾根式の口縁部破片が出土し、小竪穴56の同土器片と接合する。

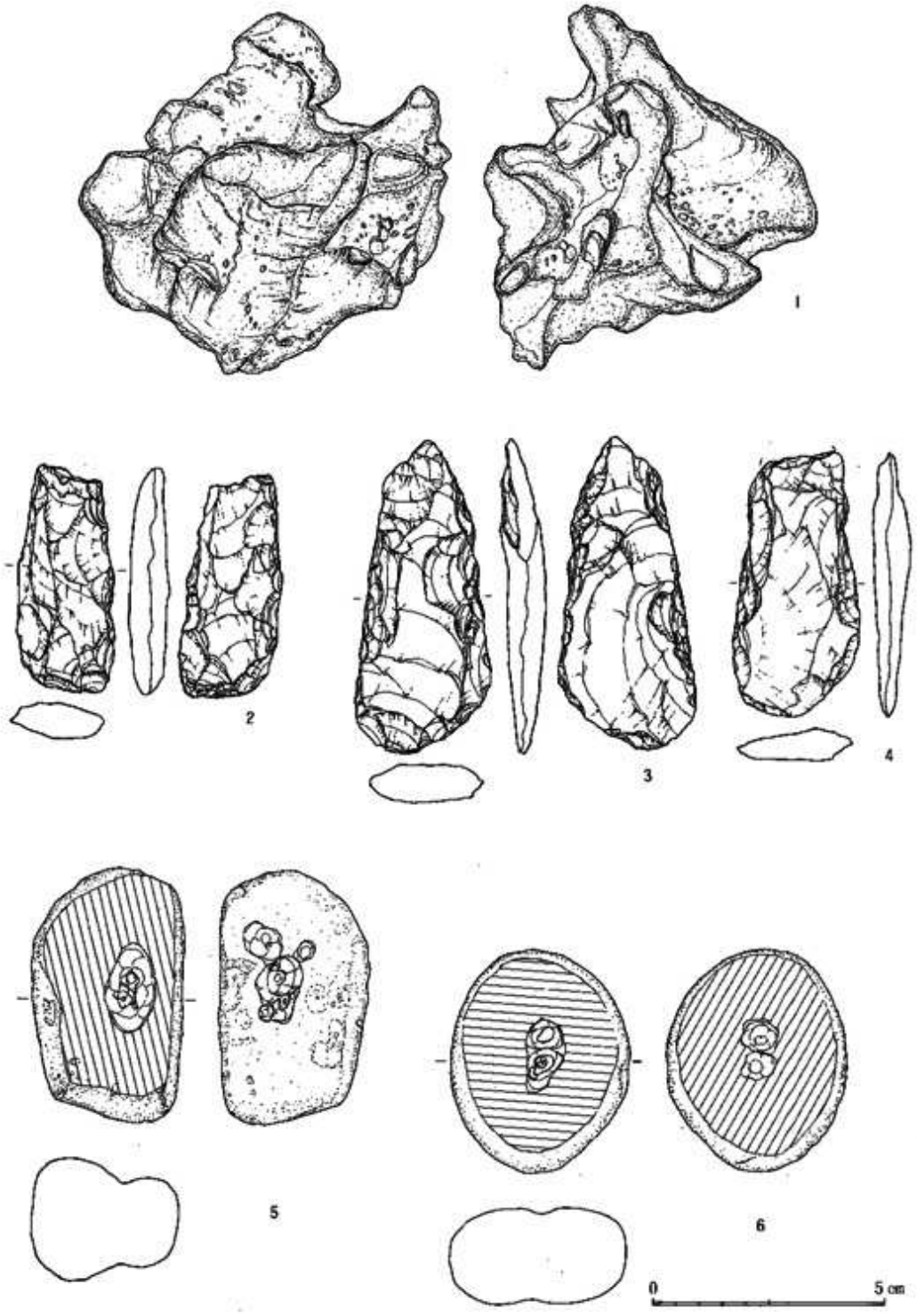
小竪穴56

GI－100で検出調査した。平面形は円形で埋土はロームと炭化物を含む黒褐色土で深さは32cm。



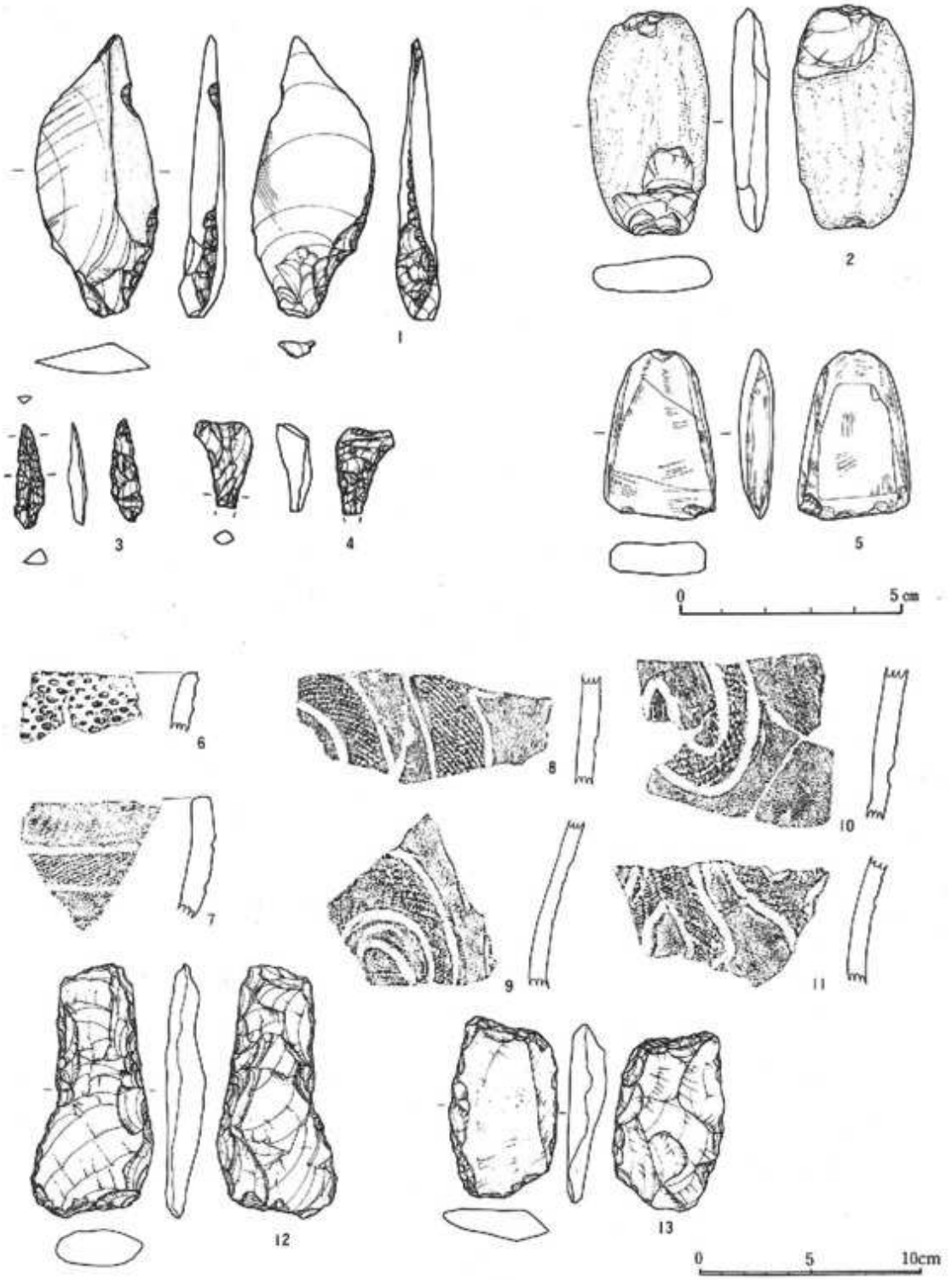
第７図　第５～７号住居址石器実測図 (2/3・1/3)

1～2＝5号住　　8～10＝5号住
3～5＝6号住　　11～12＝6号住
6～7＝7号住



第８図　第6・7号住居址石器実測図 (1/3)

1＝6号住　　2～6＝7号住



第9図　小竪穴、遺構外土器拓影・石器実測図 (2/3・1/3)

1～5・7～11＝遺構外
6＝小竪穴80
12～13＝小竪穴72

九兵衛尾根式の一括土器１個体分と同期の口縁部破片があり、小竪穴54の同土器片と接合する。この他に凹石２点が出土している。

小竪穴71・80

EI－118で検出調査した。検出面でははっきりしなかったが最終的に２基の穴が入れ子状に切り合った状態となった。新しい80は、ほぼ円形で深さ37cm、埋土は茶灰色粘土を含む黒褐色土である。切られている71は平面形は楕円形で深さ15cm。埋土は同様の黒褐色土だが80より明るい。80の埋土上面からは早期の押型文土器片３点（第９図６）と、両小竪穴から黒曜石の剝片が発見された。

小竪穴72

GE－99で検出調査した。平面形は一方がふくらむ楕円形で深さ21cm。埋土はローム粒と炭化物を含む均一な黒色土で、底部には３cmほど茶褐色土が見られた。底部は平らで、壁の立ち上がりはやや急斜である。遺物としては北壁寄りの底面上に九兵衛尾根式の深鉢が横倒しの状態で検出された（写真24)。この他に埋土中から打製石斧１点（第９図12）と横刃形石器１点（13）が発見されており、墓壙と考えられる小竪穴である。

小竪穴76

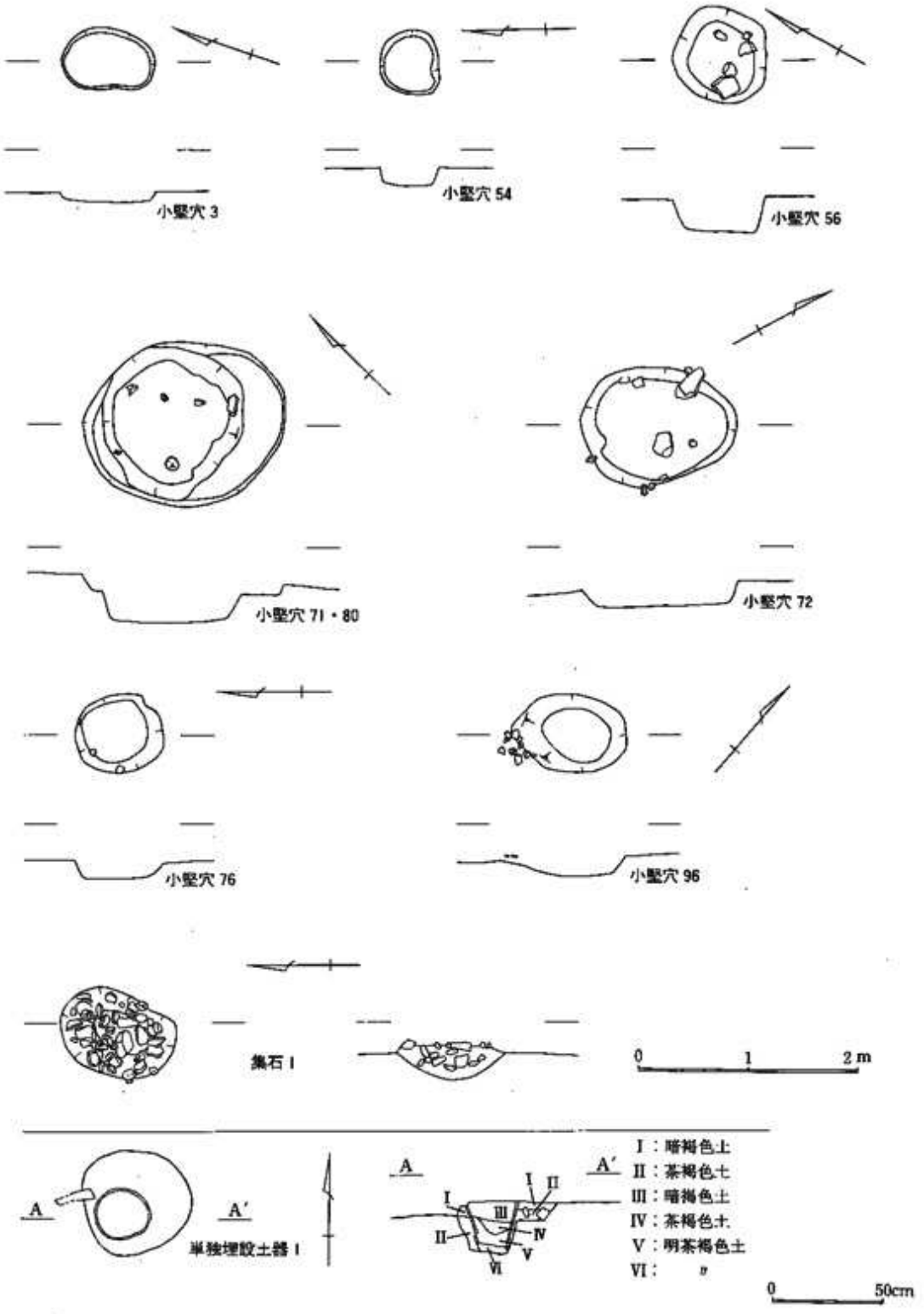
GD-37で検出調査した。平面形は円形で、埋土はロームと炭化物を含む黒褐色土で深さ17cm。検出面で中期初頭期の深鉢口縁部と底部破片が出土した（写真25)。なお平安時代の第３号住居址から同一個体と思われる把手が出土しているが、これは重複している第７号住居址に伴う可能性ある。

小竪穴96

FM－99・100、FL－99で検出調査した。平面形は楕円形で深さ18cm。埋土は黒褐色土でローム粒と炭化物を含む。遺物は中期初頭期の深鉢破片と石鏃片・黒曜石剝片が発見された。

集　石１

GF－103で検出調査した。調査の初期段階で掘り方がまったく確認できず集石と捉えた。平面形は楕円形をなし100×75cm。礫は径５cm～25cm位までの地元の安山岩100個以上で、ぎっしりまとまった状態で積み方に規則性は見られなかった。礫を除去したところ、最終的に楕円形の小竪穴状になった。内部からは礫に混ざって九兵衛尾根式の土器片１点と凹石３点が出土した。



第10図　小竪穴・集石１・単独埋設土器１実測図（1/60・1/30）

単独埋設土器 1

HC・D-91で検出調査した（写真26）。ハードローム層に正位で埋め込まれた状態であった。口縁部は欠損していた。土器断面の土層を6層に分けたが、そのうちⅢ～Ⅴには焼土を伴う。こうしたことからも住居址の炉体土器の可能性が高いと思われるが、付近はハードローム層まで削平されていることもあり、柱穴や壁等は確認できず、単独埋設土器と捉えた。土器は九兵衛尾根式である。

(3) 遺構外出土遺物

土器としては住居址や小竪穴と同様の九兵衛尾根式のものが最も多く、この他に後期初頭期と思われる破片がある。

後期の遺物は初頭期の土器片である（第9図7～11）が、ほとんどが重機による表土剝ぎの段階で排土中から発見しており遺構等を捉えることができなかったものである。石器としては石鏃・石錐・横刃形石器・打製石斧・磨製石斧・凹石・剝片類などがある。

3．平安時代の遺構と遺物

検出調査した平安時代の遺構としては住居址4軒と小竪穴2基及び柱穴列1基がある。

(1) 住　居　址

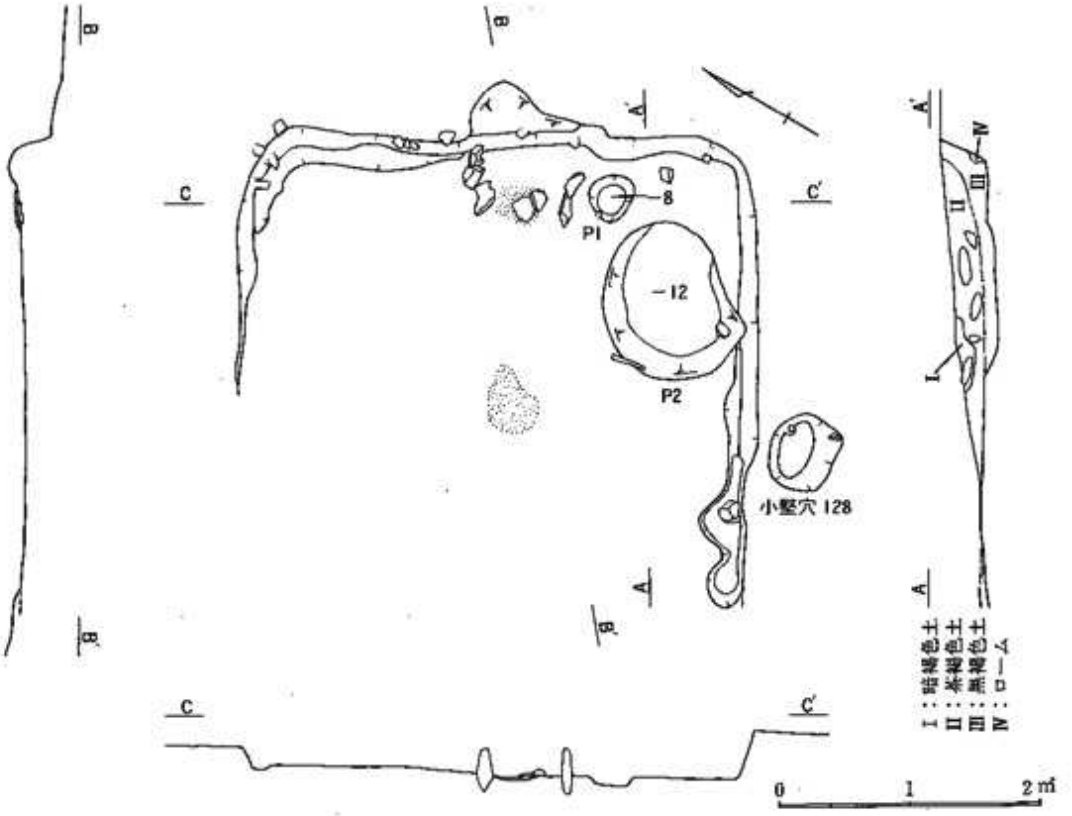
第1号住居址

調査の経過　HJ-94を中心にソフトローム層中で隅丸方形の住居址の東側部分と竈の一部と思われる礫を検出した。西側は汐によって壊されていた。

土層観察のためベルトを残して調査し、埋土をⅠ～Ⅳに細分した。Ⅰはローム粒を含む暗褐色土。Ⅱは茶褐色土でローム粒を多く含み、焼土粒と炭化物をわずかに含有する。Ⅲは黒褐色でやはりローム粒を含む。Ⅳはくずれロームである。埋土中には45cm位までの大小の礫が大量に検出された。あたかも周囲からなだれ込んだ状態であった。

遺　構　平面形は400×(370)cmの隅丸方形を呈するが西側は壁・床とも破壊されている。壁高は北東壁の38cmを最高に、南東壁25cm、西北壁12cmである。床面は竈の南西部を中心に礫混じりロームのタタキ床で固く中央部には床面が焼けた箇所がある。地焼炉と思われ、上に炭化材が乗っていた。壁際には一部に周溝が回る。住居内で検出された穴は2つあるが、いずれも浅い。

竈は石組み粘土竈で北東壁のほぼ中央にある。袖石をおおう黄褐色土が一部に認められた。重機で表土を剝いだ際に一部竈の石を除去してしまったこともあり遺存状態はあまり良くない。平らな石を立てて袖石としている。焚口部から煙道部までが約115cm、焚口部の幅は75cmを測る。竈内の焼土は厚さ3cmであった。



第11図　第１号住居址実測図 (1/60)

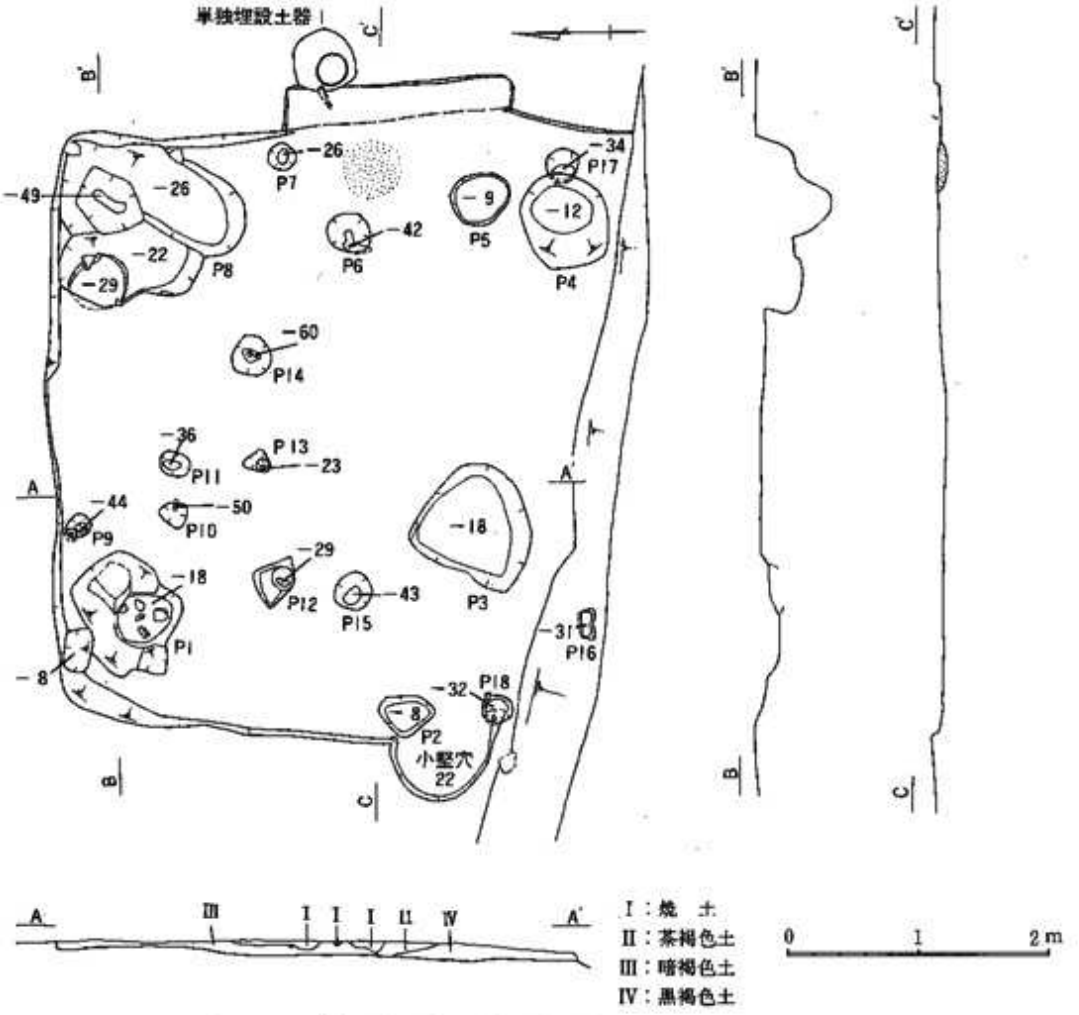
遺　物　遺物は竈内と付近にまとまってみられ、埋土中からの出土は少ない。小形甕（第14図１）が竈から出土した。この他に須恵器大甕破片、木葉底の土師器甕片若干が出土している。

第２号住居址

調査の経過　HB-91を中心にハードローム層中で隅丸方形の落ち込みと、広い範囲に焼土と炭化材を検出したため住居址と考えた。この地点は第１次調査時に小竪穴１（本住居址のＰ６）と焼土（本住居址の竈基底部）を検出し、住居址の可能性を指摘した場所であるが、田の造成時に削平されているため遺存状態はかなり悪いものと思われた。

土層観察のためベルトを残して調査し、埋土をⅠ～Ⅳに細分した。Ⅰは焼土。Ⅱ焼土・炭混じり茶褐色土。Ⅲは暗褐色土でローム塊と炭を含む。焼土の下に分布する。Ⅳは黒褐色土。焼土と炭はかなり広範囲に分布し、火災によって廃絶した住居址と思われる。

遺　構　平面形は456×(438)cmの隅丸方形を呈するが、南側の壁は田の境にあたるため破壊され、壁高は東壁の10cmを最高に、北壁６cm、西壁６cmと遺存状態は悪い。西壁は小竪穴22に切られている。床面はやや凹凸があるものの、北壁側と竈の周辺はロームのタタキ床で固く、住居址中央から南にかけては礫混じりの暗褐色土でやや柔らかい。全体に南側へ傾斜している。住居内

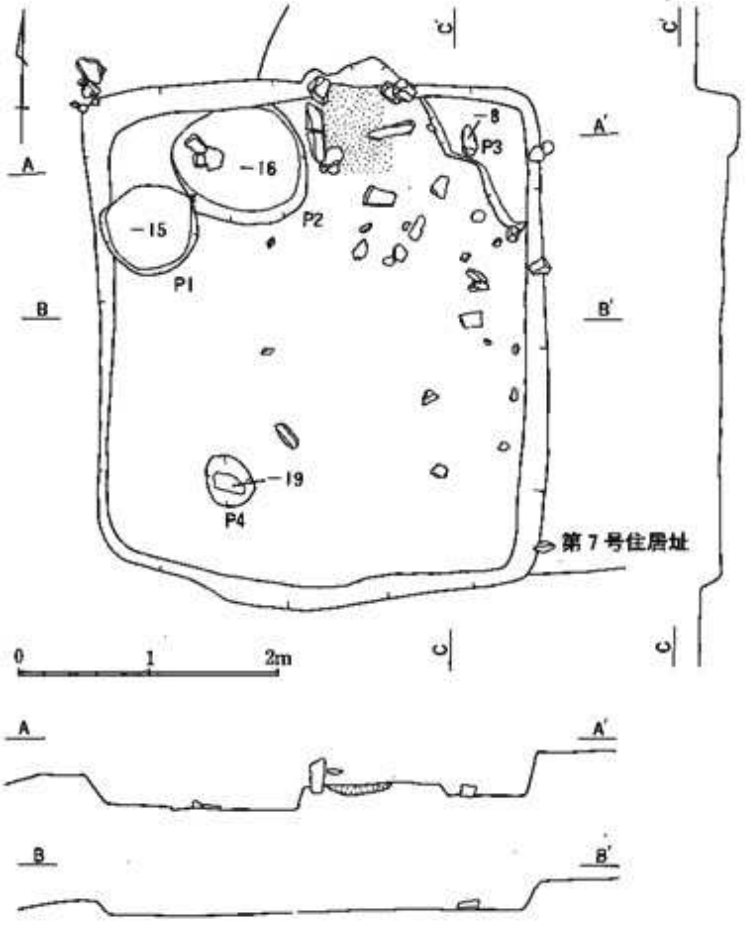


第12図　第２号住居址実測図（1/60）

で検出された穴はＰ１～P18まである。埋土は暗褐色から黒褐色土である。Ｐ６・７・14・15・18は深くて壁も急斜である。Ｐ８の埋土には15cm位までの礫を多量に含み、４つ位の穴の重複とも思われるが確認できなかった。

竈は東壁近くの床面に、径44cmの円形に焼土が分布し、これが竈の基底部の焼土と推定される。しかし袖石を立てた痕跡を認めることはできなかった。またこの焼土脇の東壁を第１次調査時のグリッド堀りで壊してしまった。焼土厚は７cmであった。

遺　物　床面から浮いて広い範囲に認められた焼土の下から多く出土した。土師器坏３点（第14図２～４）、内面黒色土器坏１点（５）、緑釉陶器皿１点（６）などがある。２～４は内面に鋸歯状暗文を施す。２の体部外面には墨書が２字認められるが、判読できなかった。緑釉皿６の胎土は極めて精緻で灰白色を呈し軟質に焼き上がっている。釉は全面に施されるが薄く、淡緑色を



第13図　第3号住居址実測図（1/60）

呈し所々剝落する。山城方面からの搬入品の可能性もあると思われる。この他に須恵器大甕片、同坏片、土師器甕片また、石器としては硬砂岩製の棒状の石器と軽石各1点がある。

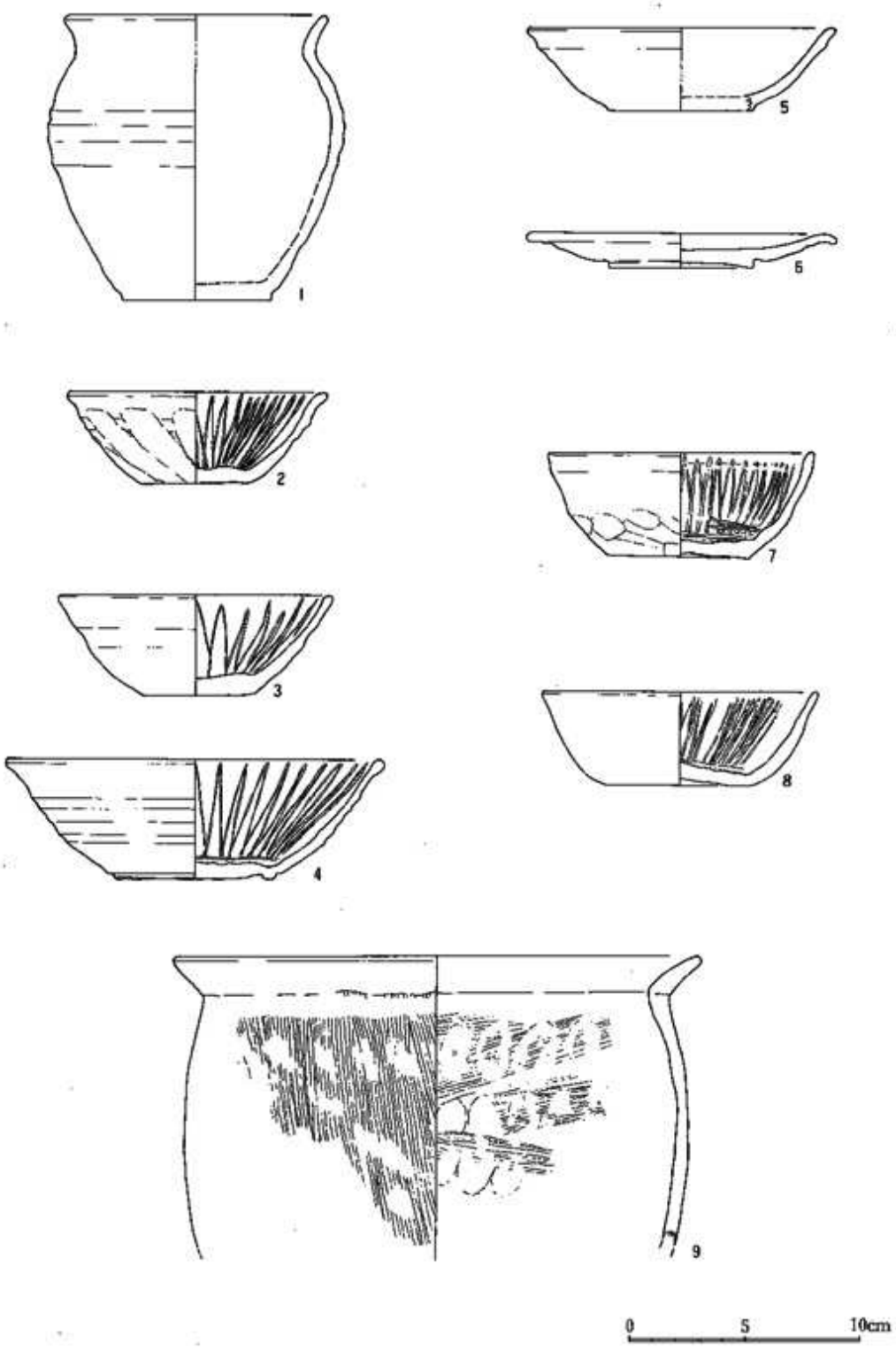
さて坏はいわゆる甲斐型である。やや過渡的なバラツキがあるが、9世紀中ごろから10世紀にかけての時期が想定される。

第3号住居址

調査の経過　GS-94を中心に茶褐色土層中で隅丸方形の住居址と思われる落ち込みと、その北壁で竈の袖石と思われる礫を検出し調査した。

土層観察のため東西方向にベルトを残して調査し、埋土を黒褐色土の単層とした。しかし、その後ベルトを除去し床面を精査する段階で掘り足りないことが解ったため、再度壁と床面を精査し床面を検出した。遺物は、7号住居址を切っているためか上層ではほとんど縄文時代の遺物しか出土せず、本址の遺物は竈内に集中していた。

遺　構　平面形は404×340cmの隅丸方形を呈し、壁高は東壁の22cmを最高に、北壁17cm、南壁



第14図　第１～４号住居址出土土器実測図 (1/3)

1＝1号住　2～6＝2号住　7・8＝3号住　9＝4号住

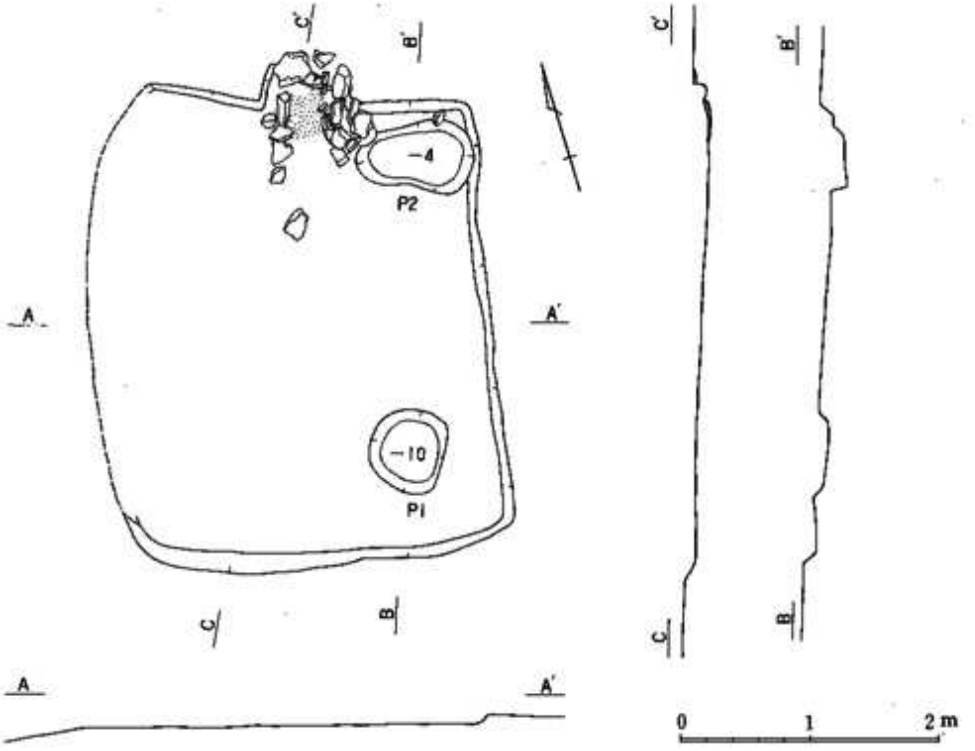
13cm、西壁11cmである。床面は竈から南壁にかけての住居址中央部はソフトローム上層を固くタタキ締めているものの、東西の壁際はやや軟弱である。床面は全体に西側へやや傾斜している。住居内で検出された穴はＰ１～Ｐ４である。埋土はいずれも黒褐色土である。

竈は北壁中央からやや東の位置にあり、袖石のみ検出された。東側の袖石は一部抜かれ、残った石も90度ずれたような格好である。焚口部から煙道部までが90cm、焚口部の幅は70cmを測る。竈内の焼土厚は10cmである。

遺　物　本址に伴う遺物は、ほとんどが竈内とその周辺から発見された。甲斐型の坏２点（第14図７・８）の内面は体部・見込み部に鋸歯状暗文が施される。これらは２号住居址の甲斐型坏よりも一段階古相を示し、９世紀前半～中葉の時期が想定される。他に木葉底の粗製土師器甕片、小形の甕片などが竈周辺から見つかっている。

第4号住居址

調査の経過　重機による表土除去作業中、まとまった焼土と竈らしい石組みを発見し、遺構検出を行ったところ、GS-101を中心としてソフトローム層中で暗褐色土の落ち込みを検出したため住居址と考えた。しかしプランがはっきりせず調査は難航した。住居内と竈の周囲には焼土がかなり分布し、炭化材も検出された。住居内の焼土上には礫が乗り、焼土下にはロームを含む暗褐色土をはさんで床面となる。２号住居址同様火災による廃絶が推定される状態であった。



第15図　第４号住居址実測図（1/60）

遺　構　平面形は354×(298)cmの隅丸方形を呈するが、西側の壁は田の境にあたるため残っていない。壁高は南壁の9cmを最高に、北壁6cm、西壁6cmと遺存状態はよくない。床面は南壁側はローム層、中央から北壁にかけては暗褐色土で柔らかく判然としない。全体に北側へやや傾斜している。住居内で検出された穴はＰ１とＰ２がある。埋土は暗褐色土である。

竈は北壁の中央部と思われる位置にあり、袖石を包むように焼土が認められた。はっきりとした天井石は残っておらず、袖石も遺存状態はあまり良くない。焚口部から煙道部までが105cm、焚口部の幅は65cmを測る。焼土厚は3cmであった。

遺　物　遺物は少なく埋土中からも出土したが竈周辺に集中していた。土師器甕が1点（第14図9）ある。この他小形でカキ目をもつ甕片や、甲斐型坏片などが出土している。

(2)　小竪穴と柱穴列

小竪穴22

HA－90・91で検出調査した。平面形は楕円形で深さ11cmと浅く、埋土はロームと炭化物を含む黒褐色土で、縄文土器が出土しているものの第2号住居址を切っている。埋土の状態から平安時代かそれ以降の小竪穴である。

小竪穴27

HD－95で検出調査した。平面形は長方形状の楕円形で深さ14cm。埋土はローム塊と炭化物・焼土粒を含む黒褐色土で、西側に集中して20個以上の礫が検出された。埋土中からは土師器の小形甕の下半部と坏破片、須恵器の甕破片が出土した。

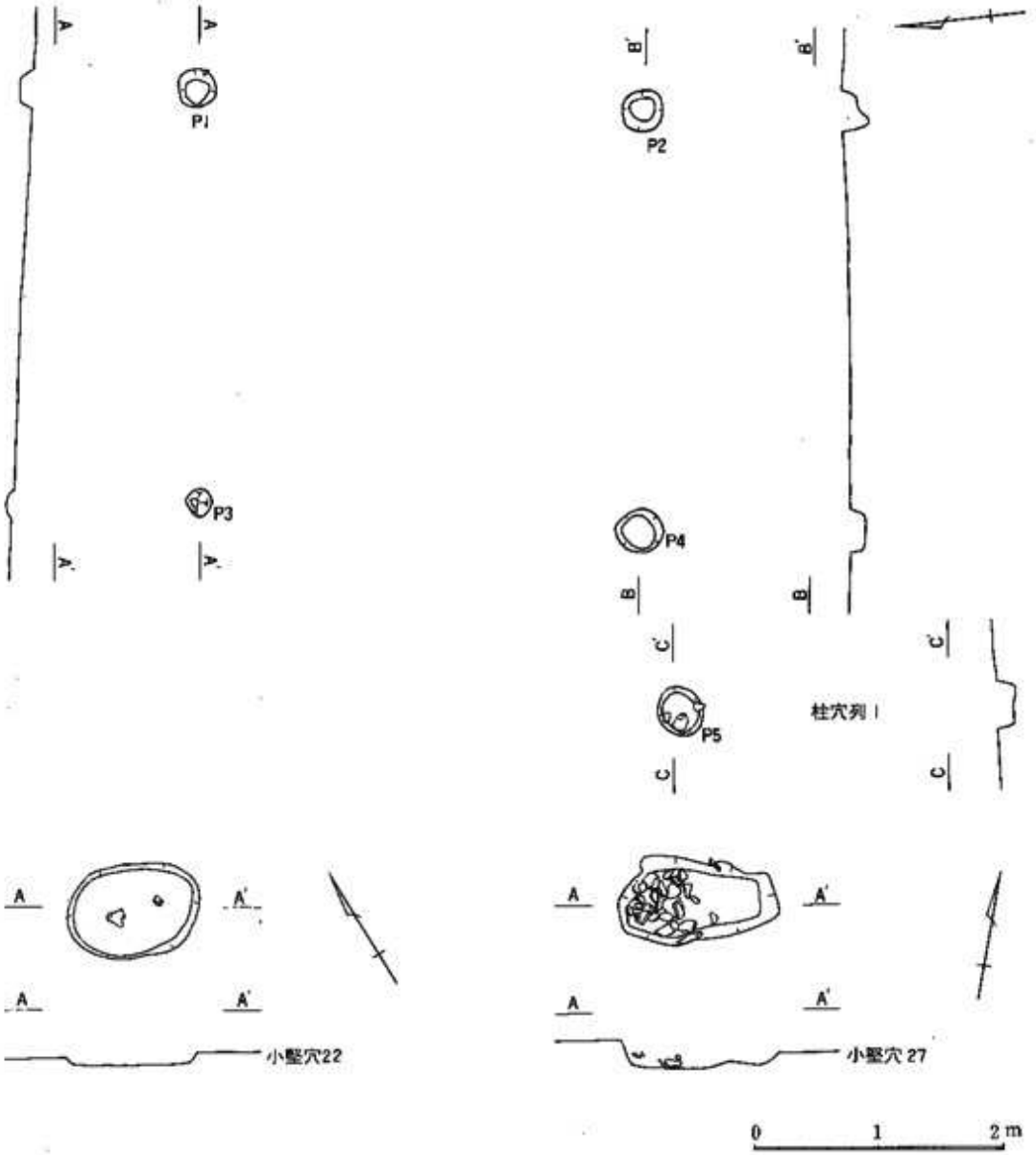
柱穴列1

GJ－94付近で5基のピットを検出した。Ｐ１～Ｐ４はほぼ長方形に並びＰ５はＰ４に接している。いずれも平面形は円形に近く、Ｐ３の22×21cm深さ6cmからＰ５の40×36cm深さ16cmと異なるものの、埋土は10～15mmまでのロームを含む黒色土で柔らかく、類似している。

Ｐ１とＰ２の間隔は351cm、Ｐ３とＰ４は同じく351cmであり、Ｐ１とＰ３は333cm、Ｐ２とＰ４は同じく333cmと規則性がある。なおＰ４とＰ５の間隔は150cmある。いずれの穴からも遺物の出土はなく時期は特定できないが、埋土の状態から平安時代あるいは以降のものであろう。

(3)　遺構外出土遺物

須恵器片・土師器片が出土しているが、いずれも破片である。



第16図　小竪穴・柱穴列1実測図 (1/60)

Ⅶ まとめ

宿尻遺跡は昨年度の範囲確認調査とそれ以前に出土している遺物から、縄文時代早期、縄文時代中期の九兵衛尾根式期、曽利式期、平安時代、近世の遺跡と考えられた。しかし今回の調査では新たに旧石器時代と縄文後期の遺物が加わった一方で、曽利式期の遺構・遺物は発見できなかった。以下に概要をまとめておきたい。

旧石器時代は、攪乱中からナイフ形石器が1点出土したのみである。付近は水田の造成によってハードローム層まで削られているため、包含層は破壊されてしまったようである。

縄文時代としては早期・中期・後期がある。早期は小竪穴1基があり、楕円押型文土器が発見されている。本遺跡の主体となる時期である中期は、九兵衛尾根式期の住居址3軒と小竪穴群がある。田の造成等で破壊されている箇所も多いため、これのみでひとつのと集落と捉えることはできないが、同一時期に存在したものと思われ注目される。住居址は北西ー南東方向にほぼ一列に並び、その南西部に多くの小竪穴群が集中している。小竪穴群には墓壙と考えられるものもあり、同時期の遺物が検出された穴も多い。この時期の遺跡としては、尾根をひとつ越えた南に大石遺跡があり、同期の住居址13軒と多くの小竪穴を調査しているが、当遺跡との関係が注目されるところである。後期は初頭期の土器片の発見があるが、重機による表土剝ぎの排土中で発見されているため、この時期の様相を伺い知るまでには至らなかった。

平安時代の住居址4軒は北側へ開くような形で弧状にほぼ等間隔で並んでいる。1・2号住居址は東壁に竈が設けられ、3・4号住居址は北壁にある。2・4号住居址は火災によって廃絶したものと思われ、住居址内に大量の焼土と炭化材が見られた。これらの住居址のなかで3号住居址はその出土遺物から他の住居址よりも古く考えられるため、安易に一括して考えることはできないが、2号住居址については規模が一番大きくまた緑釉陶器の皿が出土していることなどから、集落の中心的な家だったと考えることもできる。いずれにせよ当地方の一般的な平安時代の遺跡立地が尾根の南斜面に列状に並ぶものと考えられているのと比較して、本遺跡の在り方は今後の該期の遺跡立地を考える際の貴重な資料となろう。

最後に、関係者各位ならびに猛暑の中発掘調査にたずさわった方々に厚くお礼申し上げる次第である。

表2　宿尻遺跡の小竪穴一覧

表中のカッコ付けの数値は、重複した小竪穴で現存部分を示す。1・19・33・75・95は欠番。

番号	検出位置(グリッド)	平　面　形	長軸	短軸	深さ	埋土・出土遺物など
1	欠番					第2号住居址のP6となる。第1次調査で検出。
2	HO-92・HO-93	円形	132	118	30	含ローム茶褐色土。第1次調査で検出。
3	GM-100	楕円形	84	56	9	含ローム・炭化物茶褐色土。縄文一括土器、凹石。第1次調査で検出。
4	GL-100・GL-101	楕円形	80	70	13	含ローム茶褐色土。第1次調査で検出。
5	ET-125・ET-126	楕円形	122	60	17	茶褐色土。自然堆積状態。第1次調査で一部調査。
6	ET-125・ES-125 ES-126	不整楕円形	104	87	23	茶褐色土。自然堆積状態。重複？。第1次調査で一部調査。
7	EL-125・EL-126	不整楕円形	86	76	16	茶褐色土。重複？。第1次調査で一部調査。
8	EL-125・EL-126	不整楕円形	122	112	18	茶褐色土。第1次調査で一部調査。
9	EI-125・EH-125 EH-126	不整楕円形	252	134	39	茶褐色土。第1次調査で一部調査。
10	EH-125・EH-126 EG-125・EG-126	不整長楕円形	132	120	25	茶褐色土。縄文？土器片、黒曜石剥片。第1次調査で一部調査。
11	HR-93	円形	(130)	(115)	31	含ローム黒色土。自然堆積状態。凹石。
12	HQ-93・HQ-94	不整楕円形	102	72	14	含ローム黒褐色土。
13	HO-93・HO-94	円形	113	94	14	含ローム黒褐色土。
14	HN-91・HN-92 HM-91・HM-92	不整楕円形	104	86	30	含ローム・炭化物黒色土。縄文土器片、黒曜石剥片。
15	HM-92・HM-93	不整円形	90	86	16	含ローム暗褐色土。打製石斧。
16	HM-93・HM-94	不整長楕円形	200	108	17	含ローム茶褐色土。
17	HN-94・95・HM-95	不整長楕円形	142	98	33	含ローム暗褐色土。
18	HN-95・HM-94・95	不整長楕円形	274	124	29	含ローム・炭化物暗褐色土、茶褐色土。黒曜石剥片。
19	欠番					
20	HL-92	楕円形	74	66	19	含ローム暗褐色土。
21	HL-92	楕円形	89	62	14	暗褐色土。
22	HA-90・HA-91	楕円形	106	76	11	含ローム・炭化物黒褐色土。2号住と重複し新しい。縄文土器片。
23	GY-91・GX-91	不整長楕円形	162	90	29	含ローム・炭化物黒褐色土、暗褐色土。自然堆積状態。縄文土器片。
24	GX-91	円形	88	78	21	含ローム暗褐色土。自然堆積状態。
25	GY-92	隅丸長方形	102	94	17	含ローム・炭化物黒褐色土。26と重複し新しい。
26	GY-92	楕円形	136	98	10	含ローム暗褐色土。25と重複し古い。
27	HD-95	長楕円形	130	74	14	含ローム黒褐色土。土師器、須恵器。
28	HD-96	楕円形	92	66	5	含ローム茶褐色土。縄文土器片。
29	HC-97・HC-98 HB-97・HB-98	不整楕円形	182	178	43	含ローム黒褐色土。
30	HB-96・HB-97	円形	82	74	15	含ローム黒褐色土。縄文土器片、緑色岩剥片。
31	HA-96	円形	83	75	10	含ローム暗褐色土。
32	GY-96	円形	82	68	20	含ローム暗褐色土。縄文土器片。
33	欠番					
34	GX-95・GX-96 GW-95・GW-96	円形	105	98	12	含ローム暗褐色土。
35	GW-95	円形	84	78	39	含ローム暗褐色土。自然堆積状態。縄文土器片。
36	GS-97・GT-97	円形	66	54	21	含ローム・炭化物暗褐色土。97と重複し新しい。黒曜石剥片。
37	GS-97	不整楕円形	154	126	18	含ローム・炭化物暗褐色土。縄文土器片、ハンマー、石皿。
38	GT-98・GS-97・98	円形	152	90	39	含ローム暗褐色土。自然堆積状態。
39	GS-99	楕円形	78	62	31	含ローム暗褐色土。
40	GS-98・GS-99	円形	92	86	29	含ローム暗褐色土。
41	GO-95	不整円形	88	80	9	含ローム・炭化物暗褐色土。縄文土器片。
42	GN-95	円形	84	70	11	暗褐色土。縄文土器片。
43	GN-96	円形	56	54	9	含ローム黒褐色土。

番号	検出位置(グリッド)	平　面　形	長軸	短軸	深さ	埋土・出土遺物など
44	GN-96・GM-96	不整長楕円形	74	30	4	
45	GM-97	楕円形	94	70	24	含ローム・炭化物暗褐色土。縄文土器片。
46	GN-98・GM-98	円形	84	80	21	含ローム暗褐色土。縄文土器片。
47	GM-98	円形	60	56	25	含ローム・炭化物暗褐色土。黒曜石剥片。
48	GM-99	円形	96	90	14	含ローム・炭化物茶褐色土。
49	GL-99	不整円形	92	82	11	含ローム・炭化物暗褐色土。自然堆積状態。縄文土器片。
50	GL-98	円形	(78)	(88)	12	含ローム・炭化物茶褐色土。51・106と重複。縄文土器片、黒曜石剥片、緑色岩剥片。
51	GL-97・GL-98	楕円形	(86)	72	16	含ローム・炭化物茶褐色土。自然堆積状態。50・106と重複。
52	GL-101	円形	100	88	12	含ローム・焼土・炭化物茶褐色土。縄文土器片、黒曜石剥片。
53	GK-101	円形	96	88	28	含ローム・炭化物暗褐色土、茶褐色土。自然堆積状態。縄文土器片、黒曜石剥片。
54	GK-100・GJ-100	円形	60	54	17	含ローム・炭化物暗褐色土。縄文土器片。
55	GI-100	不整楕円形	90	78	19	含ローム・炭化物黒褐色土。自然堆積状態。縄文土器片、黒曜石石核、黒曜石剥片、緑色岩剥片。
56	GI-100	円形	92	86	32	含ローム・炭化物黒褐色土。縄文一括土器、凹石。
57	GI-99・GH-99	楕円形	132	100	40	含ローム・黒褐色土、含ローム・炭化物暗褐色土。重複？。縄文土器片、黒曜石剥片。
58	GO-93	楕円形	82	66	21	含ローム・炭化物黒色土。縄文土器片、緑色岩剥片。
59	GO-92・GO-93	円形	84	84	33	含ローム・炭化物黒色土。縄文土器片、磨製石斧。
60	GP-92・GP-93	楕円形	78	70	20	含ローム・炭化物黒褐色土、含焼土茶褐色土。自然堆積。縄文土器片。
61	GL-105・GK-106 GL-105・GK-106	楕円形	78	64	35	含ローム茶褐色土。
62	GK-106	円形	86	76	17	含ローム茶褐色土。
63	GJ-106	円形	85	84	30	含ローム・炭化物茶褐色土。縄文土器片。
64	GJ-106	円形	63	59	27	含ローム茶褐色土。縄文土器片、黒曜石剥片。
65	GH-96・GI-96	楕円形	134	96	17	含ローム・炭化物黒色土。
66	GH-96・GH-97	不楕円形	142	132	16	含ローム黒色土。黒曜石剥片。
67	GD-96・GE-96	楕円形	184	111	12	黒色土。
68	GE-104	円形	84	84	31	含ローム暗褐色土。
69	GF-105・GF-106	楕円形	58	58	15	含ローム・炭化物茶褐色土。
70	GE-105・GF-105	円形	134	122	19	含ローム暗褐色土。縄文土器片、黒曜石剥片。
71	EI-118	楕円形	182	148	(15)	含ローム黒褐色土。80と重複し古い。黒曜石剥片。
72	GE-99	楕円形	140	110	21	含ローム・炭化物黒色土。縄文一括土器、打石斧、横刃形石器、黒曜石剥片
73	GE-100・GF-100	円形	96	94	23	含ローム黒褐色土。縄文土器片。
74	GE-92・GF-92	円形	100	90	18	含ローム黒褐色土。
75	欠番					
76	GD-37	円形	82	74	17	含ローム・炭化物黒褐色土。縄文土器片。
77	GC-92・GD-92	不整楕円形	136	116	13	含ローム暗褐色土。
78	GC-94	長楕円形	110	66	7	暗褐色土。
79	EK-119・EK-120 EJ-119・EJ-120	楕円形	92	68	12	含ローム茶褐色土。
80	EI-118	円形	(138)	(128)	(37)	含ローム・炭化物黒褐色土。71と重複し新しい。縄文早期土器片、黒曜石剥片。
81	EG-119・EH-119	円形	90	76	28	含ローム黒褐色土。
82	EH-120・GF-92	不整楕円形	72	64	4	含ローム茶褐色土。
83	EG-120	円形	86	78	11	含ローム茶褐色土。
84	EE-119・EF-119	不整楕円形	138	86	40	含ローム・灰色粘土茶褐色土。
85	EE-120	円形	83	70	27	含ローム茶褐色土。
86	EE-120・EF-120 EE-121・EF-121	円形	84	70	6	含ローム茶褐色土。
87	EE-121	楕円形	70	60	18	含ローム・灰色粘土茶褐色土。縄文土器片。
88	EE-122	不整楕円形	53	42	5	含ローム茶褐色土。

番号	検出位置(グリッド)	平　面　形	長軸	短軸	深さ	埋土・出土遺物など
89	ED-119・ED-120	楕円形	90	63	19	含ローム・炭化物暗褐色土。
90	EC-120・ED-120	楕円形	110	92	30	含ローム茶褐色土。
91	ED-120	楕円形	70	53	11	明茶褐色土。
92	EC-121	楕円形	104	84	147	含ローム・灰色粘土茶褐色土。
93	ED-122・ED-123	楕円形	95	78	15	含ローム明茶褐色土。
94	ED-120・EE-120	不整楕円形	67	59	7	明茶褐色土。
95	欠番					
96	FL-99・FM-99・100	楕円形	104	70	18	含ローム・炭化物黒褐色土。縄文土器片、石鏃、黒曜石剥片。
97	GT-97	楕円形	(52)	60	15	含ローム茶褐色土。36と重複し古い。
98	FL-100	不整楕円形	78	68	9	含ローム・炭化物暗褐色土。縄文土器片。
99	FL-100	不整楕円形	66	58	10	含ローム・炭化物暗褐色土。
100	FL-100・FL-101	不整形	168	80	12	含ローム・炭化物暗褐色土。重複？。縄文土器片、黒曜石剥片。
101	FL-101	楕円形	86	56	5	含ローム暗褐色土。黒曜石剥片。
102	FL-102	楕円形	82	58	11	含ローム暗褐色土。
103	FL-102・FL-103 FK-103	長楕円形	170	126	10	含ローム暗褐色土。縄文土器片、打製石斧、磨石。
104	GM-95	楕円形	92	76	22	含ローム黒褐色土、含ローム茶褐色土。自然堆積状態。黒曜石剥片。
105	GN-94・GO-94	楕円形	56	40	6	含ローム茶褐色土。
106	GL-98	楕円形	(60)	50	10	暗褐色土。50・51と重複。縄文土器片。
107	GL-96	楕円形	96	62	17	含ローム黒褐色土。自然堆積状態。
108	GL-96・GL-97	長楕円形	(82)	(56)	18	含ローム黒褐色土。109と重複。縄文土器片。
109	GK-97・GL-96・97	不整楕円形	(110)	(64)	10	含ローム黒褐色土。108と重複。黒曜石剥片。
110	GJ-101	楕円形	66	50	16	含ローム・焼土暗褐色土。自然堆積状態。
111	GJ-100・GJ-101	楕円形	92	70	15	含ローム・炭化物暗褐色土。自然堆積状態。縄文土器片。
112	GI-100・GI-101	円形	86	86	22	含ローム・炭化物暗褐色土。縄文土器片。
113	GL-104	円形	74	64	14	含ローム茶褐色土。縄文土器片、黒曜石剥片。
114	GF-101・GG-101	隅丸方形	96	82	26	含ローム暗褐色土、含ローム茶褐色土。縄文土器片、黒曜石剥片。
115	GH-93	円形	60	57	19	含ローム暗褐色土。自然堆積状態。
116	GG-93・GH-93	楕円形	106	84	19	含ローム暗褐色土。
117	GG-36・GH-94	不整楕円形	140	120	18	含ローム黒褐色土。黒曜石剥片。
118	GF-92	不整楕円形	112	96	20	含ローム暗褐色土。
119	GF-98	楕円形	(120)	(78)	14	含ローム暗褐色土。120・122と重複。
120	GF-98	不整円形	(54)	(52)	(16)	含ローム暗褐色土。119・122と重複。
121	GF-98	楕円形	62	54	34	含ローム黒褐色土。
122	GF-98・GF-99	不整楕円形	68	58	40	含ローム黒褐色土。119・120と重複。
123	GF 99	楕円形	62	46	13	含ローム暗褐色土。縄文土器片。
124	GF-99	楕円形	54	42	17	含ローム暗褐色土。
125	GD-91・GD-92	不整円形	96	84	9	含ローム暗褐色土。
126	GR-95・GR-96	隅丸方形	120	120	37	含ローム黒褐色土。縄文土器片。
127	GF-97・GG-97 GF-98・GG-98	楕円形	78	60	6	暗褐色土。
128	HK-93	円形	58	52	20	暗褐色土。
129	GW-96	円形	67	65	13	含ローム茶褐色土。
130	GV-95・GV-96	円形	86	76	31	含ローム暗褐色土、黒褐色土。凹石。
131	GP-100・GP-101	円形	62	60	10	含ローム茶褐色土。縄文土器片。
132	GP-101	円形	64	62	8	含ローム茶褐色土。縄文土器片。
133	GP-100・GP-101	円形	70	66	5	含ローム・炭化物茶褐色土。
134	EE-121	不整円形	102	99	17	含ローム・炭化物・焼土黒褐色土。縄文土器片、打製石斧、黒曜石剥片。
135	GR-96・GS-97	楕円形	112	92	19	含ローム暗褐色土。
136	GH-101	円形	58	56	34	暗褐色土。

参 考 文 献

1976.03　長野県教育委員会『昭和50年度　長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書茅野市・原村その1、富士見町その2』

1985.07　原村役場『原村誌　上巻』

1988.03　長野県史刊行会『長野県史考古資料編　全1巻（4）遺構・遺物』

1994.03　原村教育委員会『宿尻遺跡　県営ほ場整備事業西部地区に伴う緊急範囲確認調査報告書』

発掘調査団名簿

団　　長	平林　太尾（原村教育委員会教育長）
調査担当者	五味　一郎（原村教育委員会）
調 査 員	井上智恵子
調査参加者	宮坂とし子　鎌倉きふみ　清水つるゑ　清水　豊一　清水　太助 清水　健郎　清水千代子　西沢　寛人　小林　正一　中村きみゑ 小林　ミサ　長林ときわ　清水　正進　平林　途雄　清水　けさ 清水　容子（以上発掘調査）　日達けさほ（整理）　（順不同）
事 務 局	平林今朝二（教育次長）　大口美代子（庶務係長） 宮坂　道彦（主任）　伊藤　佳江　平出　一治　平林とし美 五味　一郎（文化財係長）

写 真 図 版

写真1　遺跡遠景
（南西から）

写真2　第5号住居址遺物
礫出土状態
（西から）

写真3　第5号住居址
（南から）

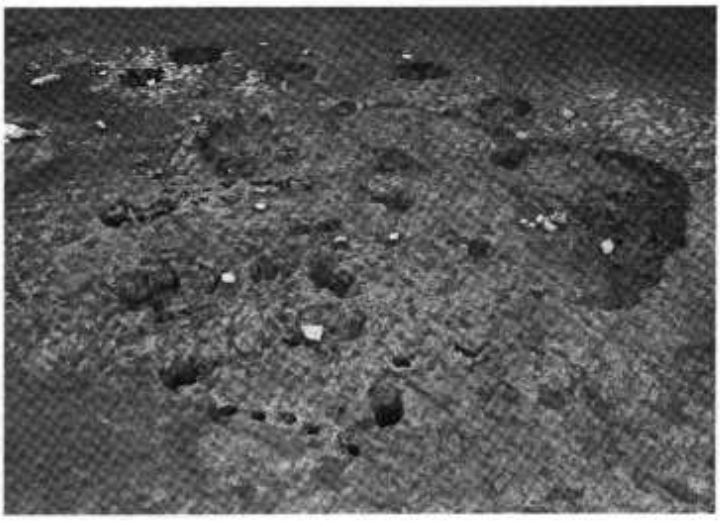


写真4　第6号住居址
（南から）

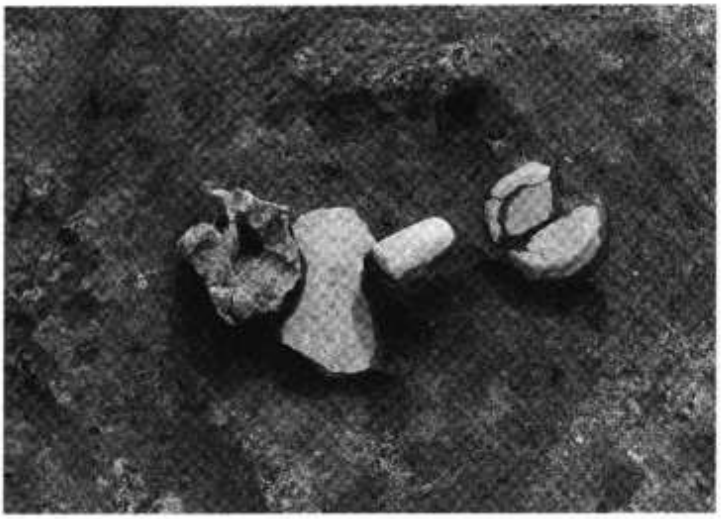


写真5　第6号住居址祭壇？
石棒・溶岩（安山岩）・
浅鉢底部出土状態

写真6　第7号住居址遺物
礫出土状態（南から）

写真7　第7号住居址

写真8　小竪穴3遺物
出土状態

写真9　小竪穴72遺物
出土状態
（北から）

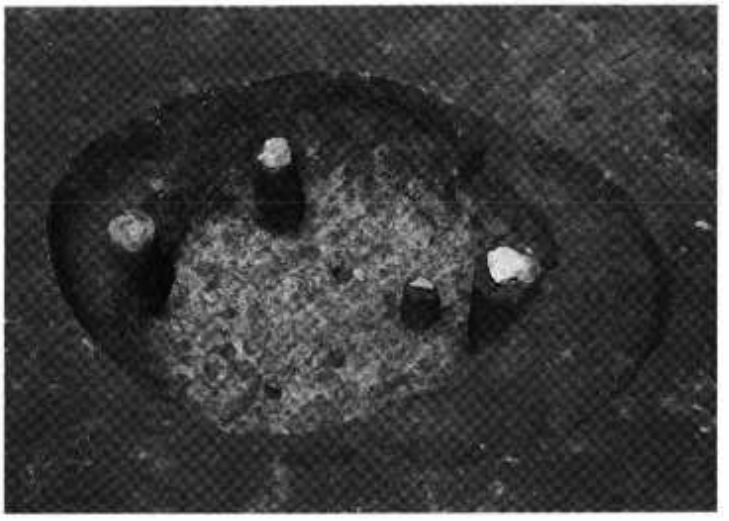


写真10 小竪穴71・80
（南西から）

写真11 小竪穴72・56周辺
（西から）

写真12 小竪穴59・53周辺
（南から）

写真13 第1号住居址
（西から）

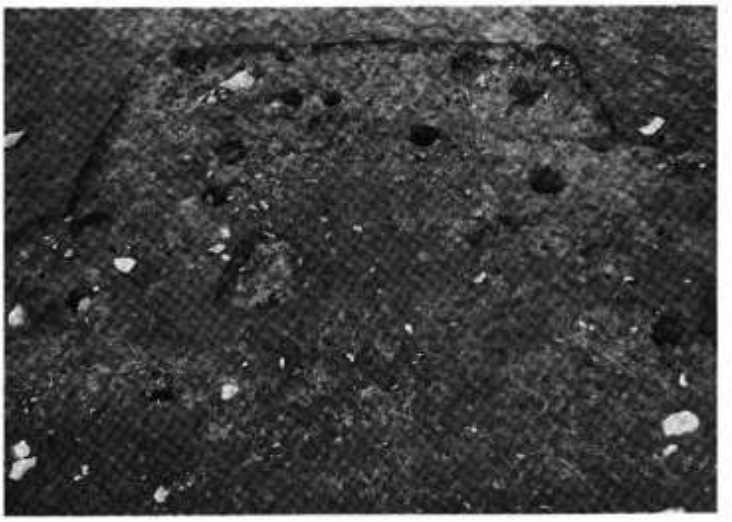


写真14 第2号住居址
（南から）

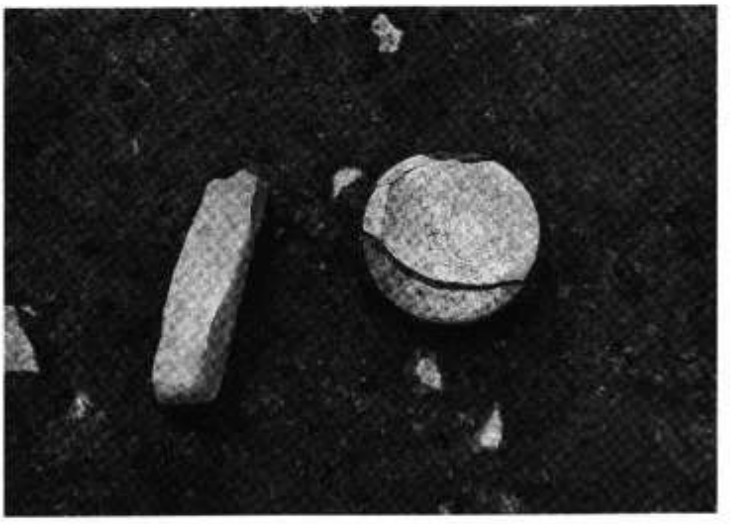


写真15 第2号住居址緑釉陶器皿・棒状石器出土状態

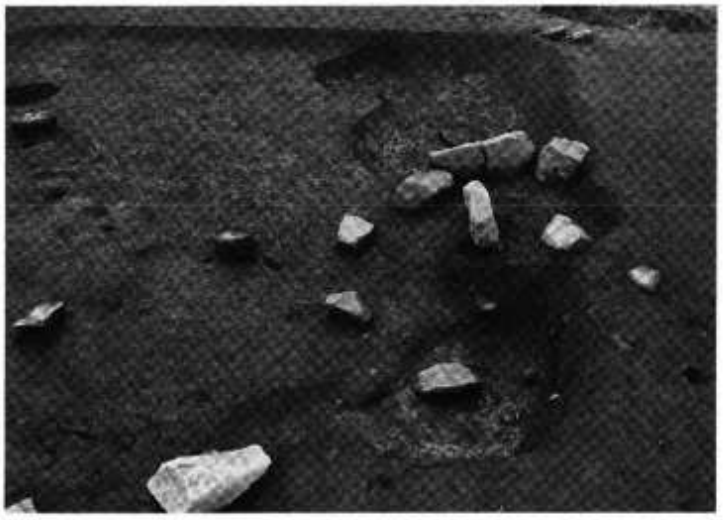


写真16 第3号住居址
（東から）

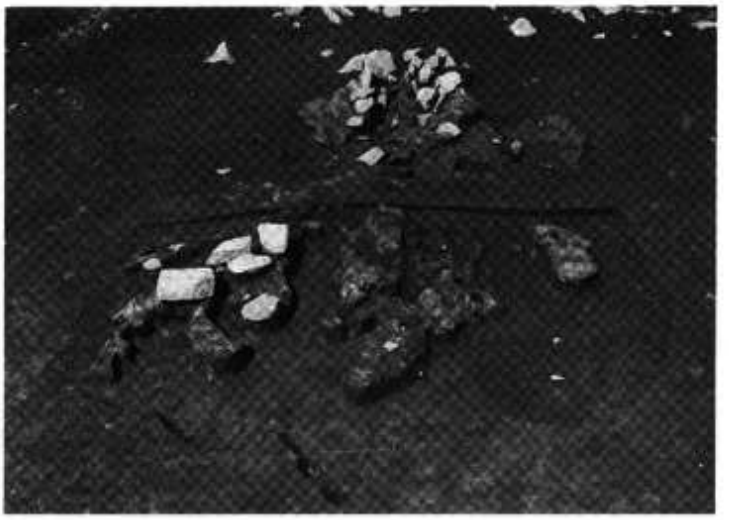


写真17 第4号住居址礫・
焼土検出状態
（南から）

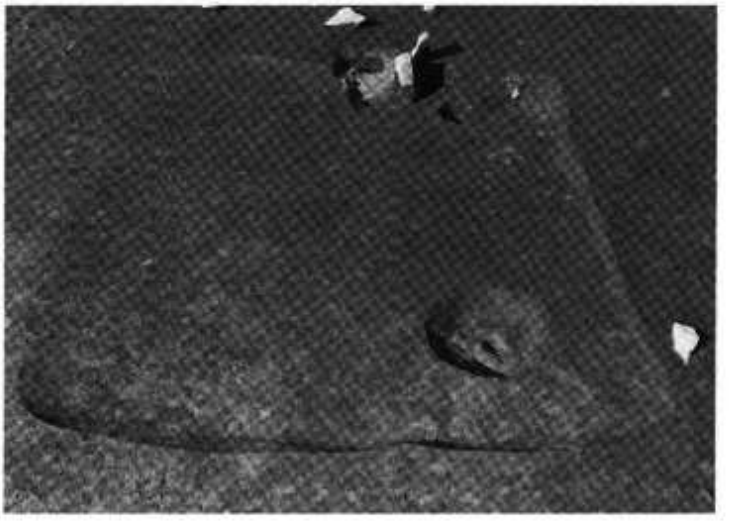


写真18 第4号住居址
（南から）

写真19 第7号住居址土器

写真20 第7号住居址土器

写真21 第7号住居址土器

写真22 第7号住居址炉体土器

写真23 第6号住居址土器

写真24 小竪穴72土器

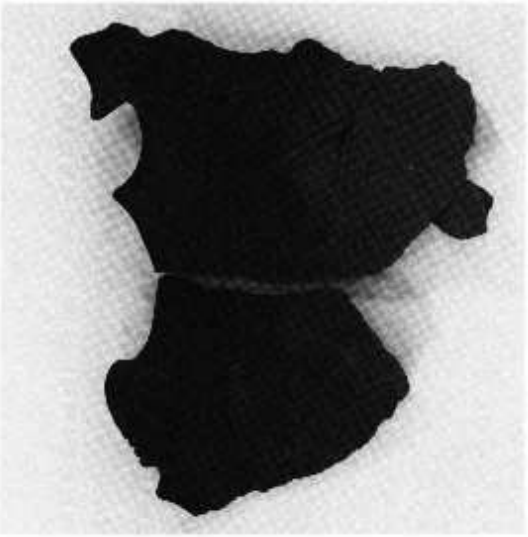


写真25 小竪穴76土器

写真26 単独埋設土器1

報告書抄録

ふりがな	しゅくじり
書名	宿尻遺跡（第２次発掘調査）
副書名	平成６年度県営ほ場整備事業原村西部地区に伴う緊急発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	原村の埋蔵文化財
シリーズ番号	34
編著者名	五味一郎
編集機関	原村教育委員会
所在地	〒391-01長野県諏訪郡原村6549番地１　TEL0266-79-2111
発行年月日	西暦1995年３月22日

所収遺跡（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
宿尻（しゅくじり）	長野県諏訪郡原村（ながのけんすわぐんはらむら）	3637	46	35度57分22秒	138度12分04秒	19940509～19941014	9470	平成６年度県営ほ場整備事業原村西部地区

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
宿尻	集落跡	旧石器時代 縄文時代 早期 中期 後期 平安時代	縄文時代中期 住居址３軒 集石　１基 縄文時代ほか 小竪穴129基 平安時代 住居址４軒 小竪穴２基 柱穴列１基 など	旧石器 ナイフ形石器 縄文 早期土器片 中期土器（深鉢・浅鉢など） 後期土器片 石器（石鏃・打製石斧・磨製石斧・凹石・石皿など） 平安 土師器・灰釉陶器（甕・坏など） 緑釉陶器（皿）	

原村の埋蔵文化財34

宿尻遺跡（第2次発掘調査）

平成6年度県営ほ場整備事業原村
西部地区に伴う緊急発掘調査報告書

発行日　平成7年3月22日

発　行　原村教育委員会
長野県諏訪郡原村

印刷所　日本ハイコム株式会社
塩尻市北小野 4724
TEL 0263-56-2111